平成１３年第１３回教育委員会記録

平成１３年７月２５日（水）

杉並区教育委員会

教育委員会記録

日　　時	平成１３年７月２５日（水）午前１０時１０分～午後２時１２分			
場　　所	教育委員会室			
出席委員	委員長	丸田頼一	委員長職務代理者	宮坂公夫
	委員	大藏・之助	委員	安本ゆみ
	教育長	與川幸男		
欠席委員	（なし）			
出席説明員	事務局次長	松本義勝	庶務課長	佐藤博継
	学校運営課長	佐野宗昭	学務課長	森　仁司
	施設課長	小林陽一	指導室長	工藤豊太
	社会教育ｽﾎﾟｰﾂ課長	荒井健一	中央図書館長	古川正司
	社会教育ｾﾝﾀｰ所長	伊藤俊雄	中央図書館次長	杉田　治
事務局職員	庶務課係長	小今井七洋	法規主査	能任敏幸
	担当書記	手島広士		
傍聴者数	２０　名			

会議に付した事件

１　　教科用図書の採択について

委員長　ただいまより、平成 13 年第 13 回杉並区教育委員会定例会を開催いたします。本日の議事録署名委員は、大藏委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。開会に先立ちまして、傍聴人の皆さんに申し上げます。会議における言論について批評を加えたり、賛否を表明したり、私語、雑談などをしないこと。また、携帯は電源を切っていただくこと。よろしくお願いいたします。

本日は、中学校教科用図書の採択について審議いたします。審議の方法ですが、教科ごとに審議を行いまして、議論が出尽くした段階で順次、次の教科に進めさせていただきたいと思います。なお、教科ごとのすべての審議が終了した段階で、採択本を確認するため、休憩を挟みまして、採択の議決を改めて行います。よろしいでしょうか。

（異議なし）

委員長　また、審議に当たりましては、出版社名を明らかにして発言してくださるようお願い申し上げます。それでは、中学校の国語から始めさせていただきます。どなたか、ご意見をお願いいたします。

教育長　国語ですが、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書ということで内容を拝見させていただきました。新しい指導要領に応えるという意味で、各社それぞれ編集に工夫をされているという実感がありますが、当杉並区では光村図書が現行図書ということで使われています。新しい学習指導要領にも、しっかりと対応している。話すこと、聞くこと、書くこと、読むことという紙面づくりについて、大変しっかりした編集がされているという印象です。

それから、私は東京書籍も候補に挙げたいと思っています。この東京書籍につきましては、子どもたちが学習に対して主体的に取り組もうという姿勢を、前向きに表明しているという印象があります。特に、その中に「100 秒スピーチ」というものがあります。それが、子どもたちのプレゼンテーションを促すという側面にもつながって、なかなか新鮮だなという印象を受けました。国語の基礎というのは、先ほども申し上げましたが、話すとか聞くとかいうことですので、この「100 秒スピーチ」という取り入れ方は、一つの教科書のこれからの時代に対する姿勢が見えるな、という印象を私は受けました。そういう意味で、現行の光村図書、あるいは東京書籍かなという印象ですが、これからの時代を担う子どもたちにはプレゼンテーションは大変大事な要素でもありますので、新鮮さという点では、東京書籍が私の印象に強く残っています。

大藏委員　いまお話がありましたように、東京書籍から順番にいきますと、東京書籍は話し言葉に重点を置いて編集しているように思います。バランスもなかなかよくて、グラビアと古典のあとに、最初に韻文を置き、そのあとに古文を置くということで、一貫した、なかなかいい編集だという感じがありました。それから、１年生から２年生までの３つの教科書がありますけれども、

この系統が非常によくできています。

学校図書のほうは、社会性重視という編集方針だと思いますが、都会型の話題が多く入れられています。現代文も古文も細切れでなく掲載しているのはなかなかいいですが、全体としてはやや地味な感じで、東京書籍に比べると、やや古い印象を受けます。でも、必要なものは全部収容されているということはあります。

三省堂については、私は賛成ではありません。一番の原因は、冒頭に谷川俊太郎の詩を挙げているのですが、その中に「カムチャッカ」と書いてあることです。谷川さんはたくさんいろいろなところに取り入れられていますけれども、これは「カムチャツカ」と書くのが普通なので、谷川俊太郎さんが「カムチャッカ」と書いたのをどうしてここに入れたのか。そんなに必然性はないと思いますので、私はこれには賛成できません。それから、これは指導要領のためかもしれませんが、収録の作品がほかのものと似ています。これも学校図書に近くて、いかにも昔の教科書風の編集です。それから、資料として作品掲載を別のところに挙げているのですが、それをする必要があるのかどうか。国語の教科書ですから、普通に中に収容していてもよかったのではないかと思います。そういう点では、三省堂がいちばん変わっていたと思います。

教育出版は、さっき言いましたように取り入れている作品が共通のものがたくさんあるのですけれども、ここだけは割合に共通のものが少なかったです。しかし、活字が小さいので、ものすごく詰め込んでいる印象があります。それから、別の作品を入れたというのは意欲的ですけれども、現代文については、どうしてこのような現代文を入れるのか、というものがあります。中学生が読むという意味では、平均的といいますか、どうしても必要なものから入れていくべきで、ちょっと変わったものを入れるというのは、あまり賛成ではありません。

光村図書は、古典の漢字を減らしています。そして、割合に振り仮名を付けています。設問は、ちょっと多いですが、アイデアはあります。ただ、古文の原文を入れるときに、原文のところだけ色付きの頁にしているのですけれども、それは意味がないのではないでしょうか。むしろ読みにくい。黒白のほうが目にもいいと思いました。私は、全体としては東京書籍がいちばんまとまっていて、新しい感じがあると思います。

宮坂職務代理者　私も一通り拝見させていただきました。個々の教科書の内容につきましては、ただいま大藏委員が言われたとおりだと思います。現行では光村図書を使っていますので、使いやすいからいちばん評価が高いかなと思っていたのですが、審議会の報告を見ますと必ずしもそうではなく、むしろ東京書籍、三省堂、教育出版当たりが比較的いいということになっています。ただ、三省堂については私もちょっと疑義があります。やはり内容的には東京書籍でしょうか。今の子どもたちは話す言葉の語彙が少ないということも言われていますし、尻上がりの妙な癖も

あるということも聞きますので、その辺りを重視している東京書籍が、今のところ一番いいのではないかと考えています。

安本委員　現行の教科書の光村は、随分長い間使われているようで、それなりに現場の先生の評価は厳しいところもあるように伺っています。ただ、それなりに努力もしていらっしゃるという感じで、小説などに割合に感動を持てるようなものがある。前とはちょっと違うという感じで、私は、東京書籍もなかなか読みやすくて、関心を高める工夫に関してはすごくいいと思ったのですけれども、どちらかというと、光村のほうが新しさを強調して努力しているということで、私は光村をもう少し続けて使ってもいいのではないかと思います。

三省堂に関しては、文字の大きさなどは大変読みやすいです。それなりに工夫もしているし、大藏先生は、本編と資料編とは分ける必要はないのではないか、とおっしゃいましたが、私は、そうなっているところがいいなと思いました。割合に整理がされている。そういう観点から見ると、三省堂もなかなかいいと思いました。

私は、どの教科書に関しても、掲載されている作品について、いいとか悪いとか申し上げるつもりはありません。例えば谷川俊太郎にしても、その詩をもっと読んでみたいという思いを引き出せる教科書を選ぶべきだと私は基本的に思っています。現行の光村に関しては、なかなか努力されていて、よろしいのではないかと思います。

教育長　最近は引用している作家の作品が随分変わったな、と思います。僕らのころは、夏目漱石とか森鴎外の時代でした。そういう意味では随分変わって、杉並区にも馴染みの深い作家の作品が増えました。特に杉並区内には、いわゆる有名な作家が多いものですから、そういう作品が随分教科書に使われている。随分様変わりしたなという印象はあります。子どもたちに親しめる作品を題材として、各社がうまく選んでいるなという印象は、私は持っています。

安本委員　夏目漱石とか、なくなってしまったものがいろいろありますね。太宰治の「走れメロス」だけは、どこにでも出ているのですね。

大藏委員　現代文を取り入れるというのも、あまり新しいものを入れるというのは安定していないところがありましてね。人気の作家というのは子どもはほかのところでも読む機会がありますから、私は、教科書に入れるものにはある程度の安定性は必要だと思います。

教育長　昔は旧仮名遣いですよね。あえて旧仮名遣いの作品もあってもいいのではないかと思うのです。言葉というのは文化ですから、日本のそういう古い文化を学ぶという意味では。これは文部科学省の方針もありますから一概には言えないのですけれども、いわゆる名作と言われている明治時代の作品などは旧仮名遣いです。私は、教科書の中にそういうものもあっていいのではないか、子どもたちにそういう力も持たせる必要があるのではないかと思うのです。今の大藏先生

のお話をあえて受け止めますと、そんな印象もあります。

安本委員　旧仮名遣いなどが出てくると、混乱してしまいませんか。

教育長　実際には、文献などでも、そのまま載っているのはいっぱいありますよね。

大蔵委員　でも、一方では夏目漱石などでも現代仮名遣いに直してやっているのもたくさんありますから、それはどちらでしょうか。

安本委員　国語の教科書に古典とか漢文とかが一緒に載っていますよね。私は、あれを別にしてもいいのではないかと思っています。高校に行けば古典の時間も漢文の時間もあるでしょうから、いいのかもしれませんが、ちょっと古典の数が少ない。中学校の段階では、もう少し知っていてもいいのではないかと思います。同じ教科書の中に入れるから窮屈になるので、別にするということもあっていいのかしらと思うのです。別のところはどこもありませんからね。

宮坂職務代理者　言葉とか文章というのは難しいのです。一つの文法を作りましても、数学や理科のようにそれは未来永劫に変わらないものではなくて、変わっていく。変わった当座はそれが文法に違反しておかしいのですが、それが大勢を占めると、何となくそれが定着してしまう。仮名遣いもそうだと思います。その辺の兼合いは難しいのですが、やはり一つの文化ですので、古典、文語調のもの、旧仮名遣いのものをわかるように区別して載せるということは、必要ではないかと思います。

　これがなくなりますと、町名などもどんどん変わってきて、確かに行政上はそのほうがいいのですが、古い作品に出てきた町名はどんどん消えていく。今の人が読んでもどこのことかわからない、ということが出てきます。これも一つの歴史、文化ですから、こういったものをどこまで国語の教科書に入れるかということは、一つの問題点はありますが、そういう姿勢というものはあってもいいのではないかと私は考えます。

教育長　ここでの議論ではないかもしれませんが。

宮坂職務代理者　総合的に言うと、やはり東京書籍がまとまっているかなという感じがします。

委員長　国語全般について、また、この候補の教科書についてのご意見をいただいたのですが、東京書籍のものは、質の高い文学作品というのが教材になっていたり、巻末の学習資料のページというのが他社と比べていちばん多いですね。それから、生徒が自由に学習計画を作る「私の国語学習」の単元を設定してみたりと、生徒の主体性を尊重したところに特色が見られるのではないかと思います。編集にも、かなりの点で新鮮さを出している。光村という話がありましたが、あまりにも教科書的で堅さがある、というような現在使われている人たちのご意見等もありますし、東京書籍でいかがでしょうか。よろしいですか。

（異議なし）

委員長　では、国語につきましては東京書籍のご意見が多いということで、これにまとめさせていただきます。

次に移りまして、書写でございます。ご意見をお願いいたします。

教育長　これも８社ございまして、私も書の達人ではありませんので、なかなか評価が難しゅうございます。日本書籍、東京書籍、大阪書籍、中京出版、学校図書、教育出版、光村図書、教育図書出版ということですが、これにつきまして、杉並区の教職員には書に優れた方がたくさんおられますので、そういう先生方のご議論も踏まえた審議会の答申を見ますと、教育出版が、現行使っているということもありますが、それとは別に大変評価を受けています。字体も大変美しいということも言われていますし、それほど多くもなく少なくもないということで、量的にも洗練されている。それから、学習したことを実際の生活に生かすような配慮が加えられている、というような報告も頂戴しています。そういった、生徒が自主的にこの教材を選んで書いてみたくなるというような要素、教材の多さが適当であるということ、選択教科にも対応ができるといった諸点を絡めまして、選定審議会の答申なども含めまして、また私が見た印象でも、教育出版にいい印象を持っています。書のことで私もそれ以上の細かい解説は困難なのですが、私も一通り見まして、教育出版が、答申の趣旨からいっても、報告書の趣旨からいっても、優れているのではないかと思います。

安本委員　教育出版は、平仮名の成立過程のようなものが載っているのです。直接お習字とか書写には関係ないかもしれませんけれども、それがすごく興味を持たせられるというところでは、私も教育出版の書写はいいと思いました。

宮坂職務代理者　選定審議会の評価もいちばん高いようですしね。小学校の場合は同じ出版社のものということで光村にしたのですけれども、中学の場合は、書き順、その辺は変わってもいいのだという先生方のご意見もあります。内容的には、現行使われている教育出版のものが一番ベターかな、という感じを私は持っています。

大藏委員　私は、よくわかりませんでした。いろいろな流派があるようで、どちらかというと好みに近いように思います。私も、どれが好きかと言われれば意見がありますけれども、どちらがいいのかということになると、私はわかりませんでした。

安本委員　字というのは好みもありますし、見た感じの墨の印刷の色具合などもありますから。

大藏委員　感じがいいな、というのはありましたけれども、どれが子どもが書写をやっていくのにいいのかというのは、判断がつきかねました。

委員長　その辺は甲乙つけ難いものがありますね。また、流派もいろいろあるので、評価の仕方、ウエイトの置き方は難しいと思いますが、審議会の報告書、ヒアリング、現場の先生方のご意見

等を尊重すると、毛筆、硬筆のバランスがいいとか、あるいは基礎、基本事項から発展段階まで、段階的にうまく配列してあるというのが、一番評価が高いのが一応、教育出版ですね。いま多数の方からご推薦がございましたけど。では、これに決めさせていただいてよろしゅうございますか。

（異議なし）

委員長　ありがとうございました。

社会の地理的分野に入らさせていただきます。では、よろしくお願いします。

大蔵委員　どれもいろいろありますが、やはり順番に上からいきましょうか。

日本書籍は、クイズ風に工夫があります。世界と日本というのが、混在と言いますか、分けないで、世界が出てきたり、日本が出てきたりするような形での、地理の研修になっています。

東京書籍は、基本的には日本を中心にして、日本の周辺にある、外側にある外国という説明の仕方です。そのために、非常にわかりやすいというところがあります。

大阪書籍は、各国の内容と日本の結びつきというのが、日本書籍も似ているのですが、あまり明瞭ではなくてバラバラに出てくる。だから日本の、例えば貿易相手国が出てきて、次は貿易が出てくるみたいな地理の説明で、系統的にはあまりなっていないということです。

教育出版では、学習方法の、問題の立て方はなかなかよくできていると思いますが、この中で、後の歴史やなんかでいろんなのが出てくるのに、核廃絶の問題というのが地理の中に出てくる。これは非常に唐突な印象を受けました。

清水書院は、教科書はいちばん薄いのです。だから余計なものはありません。ゴテゴテしていません。しかし、それだけ薄いということは、やはり、内容に盛り込めないものもあるかなということでしょうね。

帝国書院は、日本についてはとても行き届いていますが、外国は付けたりのような感じです。

日本文教出版のものは、新しいことに興味を持たせようとしているところが、ほかの教科書と少し違います。

全体として地理の教科書は、日本を中心にするか、外国と日本を対等に扱っていくか、そのあたりがなかなか難しいところだと思いました。

教育長　社会の地理分野ですが、これも７社ございます。

日本書籍は、当然東京の子どもたち、杉並の子どもたちですが、やや東京を扱うページがちょっと少ないかなと思いました。大阪なんかの例が出ているのです。大阪書籍ならわかる、わかるという言い方は変ですが、日本書籍は大阪の例などが出ているので、もう少し身近な東京、杉並。別に杉並ということにこだわらなくていいのですが、東京というレベルの、親しみが持てるとい

いなという印象がございます。

東京書籍も、私は全体として親しみやすいな、バランスも取れているなという気はしております。調べ方、あるいは学び方、子どもたちの視点を大変大事にしておりますし、キャラクターなんかも上手に使えているのではないかと思います。ただし、選定審議会の中からは、世界全体の工業、あるいは、農業のわかる統計資料があるといいなという程度のお話はありますが、全体としてはバランスの取れた教科書で、私は、印刷の色具合も、レイアウトも含めて、よろしいのかなと思っております。

大阪書籍は、いろいろよく工夫がしてあります。しかし、別にこの書籍会社の名前でこだわるわけではないのですが、事例はやはり西日本の事例が多いなと思います。ちなみに、東京については２ページ程度しかページを割いていないということもありますので、やや、西日本に偏った事例研究、地域学習の内容かなという印象を受けました。

教育出版についても、大変、編集に創意工夫が見られます。東京の八王子の例なども上手に使っているなという印象でございます。キャラクターも大変豊富に使っていて、子どもたちに興味、関心を持たせる工夫がとてもできていると思います。内容がちょっと詰め込みかなという、量の問題の心配が若干あります。

清水書院はそれに比較すると、言うならば、簡潔な編集だなという印象です。調べ学習がこれからは大事にされなければいけないと思いますが、そういう意味では、そういう視点が少し薄いのではないかなと思います。

帝国書院、これは現在使っている教科書ですが、これはなかなかバランスの良い教科書で、特に「やってみよう」というような要素もありますし、杉並区の地域性にも即しているのかなという気がします。なかなかすぐれた教科書で、特に地図などに歴史を持つ会社ですので、印刷も大変見やすい教科書だと思っております。

日本文教出版は、印刷のカラー面、色具合が私はちょっと、あまり親しめないかなと印象を持ちました。昨日の小学校にもありましたが、これもたしか、シールを貼ったりできるというような内容だったと思っております。シールも使い方によっては面白いと思います。しかし、うまくそういうふうに使ってもらえるといいのですが、もちろん、うまく使うということを前提で作っている教科書ですが、ちょっと心配な部分もあるのかなという気もしております。

それぞれ創意工夫のある教科書だと思います。東京書籍、帝国書院、どちらも優れているなというのが私の印象です。でも、２社を選ぶわけにいかないものですから、紙面構成とかレイアウトとか、そういう全体のバランス面から言うと、東京書籍が若干親しみやすいかな、子どもたちに馴染みやすいかなという印象でございます。

宮坂職務代理者　私も、潜入観念かもしれないのですが、地理、地図は帝国書院という頭があります。小学校のほうも帝国書院に決めたと思うのですが、現行でもありますし、先生方の選定の報告の評価も高いようです。ただ、それだけにちょっとマンネリになっているきらいもありますので、この際、次に好評の東京書籍に移るのも１つの考えかなと思います。

日本書籍、大阪書籍は、ほかの委員の先生からも話がありましたが、東京に関するものが少ない、あるいは、ちょっと問題点がある箇所もあるということで、毀誉褒貶です。そういう意味で私としても、帝国書院、東京書籍でもよろしいかと思っております。ちょっと曖昧なのですが、頭の中でなんとなく、地理は帝国書院というのがずっとあったものですから、この辺については、どちらでもというのはちょっと無責任ですが、まあ、マンネリを変えるという意味で、東京書籍に移っても良いかなと思っております。

安本委員　全部目を通して、やはり東京書籍と帝国書院が印象に残りました。東京書籍に関しては、用語の解説が巻末にまとめられていることと、文章の表現が割り合い簡単、平易に述べられている。あと、地理ですから、資料がたくさんあったほうがいいと思ったのですが、これは資料もたくさん出ています。ただ、折込みの地図が工夫されて入っているのですが、これは扱いによってはきちんとたためなかったり、破れたりとか、ちょっとそういう心配はあるかしらと思いました。でも、課題学習についても３パターン、いろんなパターンを示して、やってみようという、そういう意欲を引き出すような工夫がされていたので、東京書籍に関して、目新しいということもあったのですが。

帝国書院は、選定審議会からの報告をいただいているように、やはり、全体のバランスはすごくいいし、作業内容、何をするかという指示がきちんとしているので、わかりやすいということ、いろんなことが発展的に、系統立てて書いてあるので、この教科書に関しても読みやすくてわかりやすい内容だとは思いました。

ですが私は、東京書籍もやはり研究に研究を重ねて地理の分野に出て来たんだなという印象を持ちましたし、どうでしょうね。帝国書院は東京については 30 ページぐらい取り上げているようなので、これに関してはやはり、研究されているなということは感じました。

委員長　ほかにございませんか。

教育長　私も宮坂さんと同じで帝国書院、確かに過去にはそういう良い印象を持っております。ただ、新しい学習指導要領に沿って果敢に、まさに調べ学習などにも対応しようとする意欲について、若干東京書籍のほうがいいのかなという印象を受けたのですが、帝国書院が劣るというわけではありません。やはり地理とか地図については、歴史もある会社ですので、大変強いなという印象は持っております。

安本委員　審議会の報告でも東京書籍、先生すごく誉めていらっしゃいましたね。なかなか使いやすいし。

教育長　だからおそらく、審議会でもこれについてはだいぶ議論があったのではないでしょうか

大蔵委員　東京が 30 頁も取られているということは、とにかく、日本の比重が非常に高いのです。全体のバランスとして日本と外国をどのくらい置くのか。これは学習指導要領にはっきり書いてないので、なかなか難しいのですが。日本は身近ですから、日本のことを書くほうが、子どもには親しみはあると思います。外国はもっと上で、高等学校でもいいじゃないかということならば、帝国書院というのは面白い。しかし、この段階である程度外国の地理的な知識を入れる、ということが目標にあるのならば、私は帝国書院はちょっと薄くて、東京書籍のほうが、全体のバランスがいいのではないかと思いました。

安本委員　バランスは東京書籍は良かったですね。

教育長　私は思わず、ずうっと読んでしまいましたよ。基礎的な知識ですから好奇心を湧かせますね。引き込まれました。忘れていることを思い出したりして。中学校の勉強っていいな、もう１回勉強しなければいけないなということを含めて、とても良い印象を受けました。

委員長　皆さん方のように、甲乙つけがたいというのが東京書籍と帝国書院なのですが、いま言われた特色のほかに東京書籍では、今後、総合的学習などで大事になってくる地域、自分たちの住んでいる所、その辺にウエイトを付けていまして、地域構成とか地域調査とか、その関連事項で占める割合というか、それがいちばん良くまとまってできているんですね。それに個性を持たせたということがありますし、もちろん、いままで委員の皆さん方がおっしゃられたような、学びやすいというか、子どもたちが学びやすいような、そういう見やすさというか、親しみやすさとか、いろいろ工夫して、東京書籍というのはできているのではないかなと思います。

　そんな意味で東京書籍にさせていただけたらどうなのかなと思います。よろしゅうございますか。

（異議なし）

委員長　では、社会の歴史的分野に入らさせていただきます。

大蔵委員　これは私も非常に力を入れて、いちばん問題の所だと思うので、何回も読みました。いちばん時間を使って読みました。分量的にも、読みやすいこともありますが、ほかの問題よりは、読む本ですから、読みました。まず最初に、直接これに関係がありませんが、私は、日本の歴史教育のあり方、これは、ヨーロッパやアメリカのやり方とは非常に違います。そのやり方について、私は若干の批判を持っていますが、それはここで申し上げるべきことではないでしょうから、それについてはそれ以上触れません。

もう１つは教科書の検定のやり方、そういうことについても私はある一定の意見を持っていますが、これもここでいま論じることではありませんので、それもしません。

いちばん大事なことは、やはり中学生である、中学校の１年から３年までの間で、どのようなものをどう勉強していくか、生徒にとっていちばん大事なことは何かということを中心にして考える。だから、これはご存じのとおりいろんな賛否両論があって、たくさんの本が出ており、私はそのほとんどを、何回か読みました。しかしそれについては、間違いがあるとか、そういう所は問題ですから、それは大事ですが、それ以外については、子どもたちにどうするかということを中心にして読んだということで、お話をさせていただきたいと思います。これもいままでどおり順番に上から一言、そんなに長くではありませんが述べていきます。

日本書籍は、平和主義という編集方針を取っているようです。しかし、そこにあまりこだわると、全体としての叙述に歪みと言いますか、そのバランスを欠くところが出てくるのではないかと思います。一方で「一揆」というのがたくさん出てきます。これは、江戸時代というのは非常に暗い時代のような印象を受けますが、そうではない。江戸時代は非常に豊かで、ライシャワーさんの『日本史』を読んでもわかりますように、日本がここで豊かであったから、農村でも寺小屋に子どもをやって勉強させるようにして、これが明治維新以後、日本がアジアで唯一生き残っていける力になったと言われるように、決して貧乏ではありません。むしろ、豊かであるために、贅沢禁止令などしょっちゅう出しているのです。

そういうところで、一揆についてたくさん書くというのは、一揆は事実ありました、ありましたが、その分については、本当にみんなが知らなければならない大きなものが出てくるのはわかりますが、「阿テ河荘」だとか、私は聞いたこともないような一揆が出てきます。一揆というのは、実はそれが起こると、そこの代官とか担当の奉行などは切腹をさせられたり、失職したりすることですから、一揆を起こさないための努力というのは、非常にたくさんしています。だからもしも挙げるのならば、この中には出てこないのですが、佐倉宗五郎とか筑後川の五庄屋とか、そういうもののほうが非常に広がりがある。だからそういう点では、私は取り上げ方に偏りがあるという印象を持ちました。

先ほども言いましたように、子どもが学ぶべき、少なくとも最低限の要素であるものについて、必要であるか、逆に、最低限のものが漏れていないかということが大事だということを考えますと、私は日本書籍は適当ではないと思います。

東京書籍は、非常に無難な線で穏健にやっていますが、そのために物足りないところがあるかもしれません。ただ私は、全体として、無難にこなそうとした努力がある一方で、しかし、大事なことはちゃんと書いている。いちばん最後の所に、これは議論のあるところでしょうが、広島

の原爆について割合大きく取り上げています。そして「軍都廣嶋」、ヒロもシマも略字ではない古い字を書いて、「軍都廣嶋」という日清、日露戦争でも大本営が置かれた、軍事を中心にした大都会、日本で５番目の都会ですから大都会であった所が、この原爆を受けて、原爆の評価もいろいろありましょうが、それを転機として「平和都市ヒロシマ」。今度は片仮名で書いてある。片仮名には若干の抵抗はありますが、そういうふうに大きな変更をして、現在の平和路線へ変わっていった象徴として取り上げています。私はこれはなかなか面白い、日本の歴史の総括ではないかなと思っておりまして、私は東京書籍は高く買います。

大阪書籍は全般的に、これもちょっと日本書籍と似ているところがあり、身分差別とか一揆が大きく取り上げられています。もう１つは折込みの図版が多いということです。大きいですから、これはなかなか迫力があります。なんとかの絵図とか「蒙古襲来絵詞」とか、そういうものも大きくカラーで印刷したものが折り込まれて、非常にきれいです。しかし一方では、先ほどの安本委員のお話のように、折込みというのは破れたり、いろんなことが起こる可能性があります。だから、そこまでする必要があったかなということは感じています。

教育出版は、これは東京書籍もそうだったと思いますが、年表を別立てとせずに中に収録しています。これも「三閉伊一揆」とか聞いたこともないものがあります。大阪書籍にある「武左衛門一揆」とか、日本の典型的な一揆として、大きな、見本になると言いますか、勉強するに価するものではない、小さな一揆を並べ立てるというところは、教育出版のよくないところです。

清水書院、これは地理もそうでしたが、歴史もページ数が少ないです。記述は非常に簡単です。どうしてそうなのかよくわからないですが、邪馬台国について非常に詳しい。しかし、このあたりは『魏志倭人伝』にしか出てこないわけで、論争もあるなかなか複雑なところなので、こんなに詳しく書かなくてもよかったのではないか。要するにバランスの問題からしてですね。私はいろいろ夢が広がる部分で邪馬台国に関心を持っていますが、邪馬台国の存在について、もう少し簡略でよかったのかなという印象です。

帝国書院は清水書院とは違って、本を持つと重い感じがします。必ずしも厚いわけではありませんが、紙質がとても良いのですね。だから印刷はとてもきれいです。しかし、ここも、一揆のことばかり言って恐縮ですが、「加助一揆」なんて聞いたこともないようなのが出てくる。どうしてもっと一般的な山城国一揆とかそういうものを挙げなかったのか。明治に入ってからですが、秩父困民党とか、こういう国家を揺るがすような大きなことがあったので、そういうもののほうが、分析をしていくには役に立つだろうと思います。　帝国書院は決してそんなに悪いというものではありませんが、比較をするならば、東京書籍のほうが良かったのではないかと思います。

日本文教出版は、表紙がちょっと変わっています。全体の中では、近現代に力があるように思

います。しかし全体としては、ほかの所とそんなに違っているわけではなくて、これを推すというような気持を持たせるものではありませんでした。

いちばんの問題はたぶん扶桑社だろうと思います。扶桑社はいままでの７社と全く違った傾向を取っています。その１つは、イタリアの歴史家にモミリアーノという人がいますが、この人が、歴史学というのは医学と修辞学の間にあると言っています。この人はなぜそう言っているか。ギリシャのヒポクラテスが最初の医者だと言われています。それと同じころにヘロドトスとかツキーデスという人が出てきて、歴史学も大体同じ時期に成立してきましたので、歴史と医学を対比しているのですが、医学というのはどちらかと言うと、原因を究明してその治療をする。歴史というのはそうではなくて、原因究明よりも修辞学、それをどうやって記述し伝えていくかという使命がある。こういう点で歴史学は、医学と同じ時期に発生したけれども、医学と違って、この物語の部分が要るということを言っているわけです。

それはこの扶桑社の新しい歴史の教科書の中には十分盛り込まれています。しかしどちらかというと、いままでのこの７社は歴史の分析と言いますか、医学的な解剖と言いますか、その原因の究明みたいなことには非常に熱心ですが、記述の部分がやや欠けている。そこで極端なことを言うと、前の７社は、受験勉強用の年表に解説をつけたような形になっていますが、扶桑社はそうではない。だから、中身を書くということに非常に力を入れています。

先生方からもいろいろ上がってきましたが、先生方から上がってきた中では、扶桑社は良くないという意見のほうが多かったです。圧倒的と言ってもいいかもしれません。その１つの理由は難しい。漢字が多くて記述も難しいということを挙げております。けれども、私は少し見解を異にします。なぜかと言いますと、先ほどの年表に解説をつけたようなものだと、そこに難しい言葉や表現が出てくると、なかなか理解できません。この扶桑社のものは読み物になっているので、ずうっと読んでいくということからすると、ちょうど私どもが小説を読んだりするときに、知らない文字があったり、知らない言葉があったりしても、いちいち辞書にあたって調べるということはしないで、どんどん読んでいって、それで筋が通ってしまいます。そういうことからすると扶桑社の歴史というのは、私も読みましたが、そんなに長い時間をかけずにスーッと読めるものですから、そういう意味での難しさというのはあまりないと思います。

間違いの指摘というのは、これはもうすでに検定の段階で百何十箇所、意見をつけて修正をしておりますので、決定的な間違いというのはほとんどないのではないかと思います。同じようなことを言えば、どちらかと言うと、見解の相違に近いような間違いというのは、ほかの教科書の中にもあります。ですからこの、間違いという点で扶桑社を採用すべきではないということは、私はないと思います。人物の挙げ方が非常に多いということがあります。多いのはすべてではあ

りませんし、バランスですから、そういうものをたくさん書けば、ほかの所は当然薄くなっていきます。そういういろんな問題を抱えていますが、これはやはり１つの波紋を投げかけた歴史の教科書だと思います。

そこで、どれを取るかですが、扶桑社は新しい教科書会社ですから、やはり作り方についてはうまくない所があります。問題の設定の仕方もあまり多くないし、必ずしも適切であるかどうかはわからない。しかし、教科書で教える、教科書を教えるとよく言われますが、それからすれば、先生がどう教えるかにかかっているのであって、昔の教科書で言えば、あとで設問をして、子どもたちに何を勉強させよう、何を研究させようなんて何も書いてありませんでした。先生の指導力があればそれで十分いけました。しかし現在の先生方は、先生方自体がそういうような設問で勉強してきた方々ですから、設問がなければ教えにくいということはあるかもしれません。そういう点では教科書として、若干の欠点といいますか、欠落している部分がある。

その前に、判がこれだけ小さい。ほかのものはみんなＢ５判になっていて大きいのですが、これはＡ５判。ですから判が小さくて、中の印刷もそんなにカラフルな、グラビアとかそんなものがあるものではありません。そういう点ではやや見劣りがする。一見してお金をかけていないという印象です。判が小さくて盛り込んであるものが多いですから、非常に詰まっている印象がある。そうすると子どもたちが見て、ほかの教科書だと明るいのにということはあるかもしれません。しかし一方で、自分の家に持って帰ったときに、ほかの７社の教科書は、事実の羅列みたいなものになっていますから、読んでみようということはないかもしれない。この扶桑社の教科書なら家に帰って、暇なときに読んでみようということもあるかもしれない。私は、そういう点では扶桑社というのは非常に魅力を持っている、十分検討に価するものであると思います。

どれを選ぶか、なかなか迷いますが、私は、扶桑社というのは十分ここで討議をして、取り上げるに価する教科書の１つであって、頭から、これはおかしいと言うほどのものではないと思っております。

宮坂職務代理者　いま各教科書会社の内容について、専門的な立場から大藏委員のお話を聞いて、内容的には私も、ほぼそのとおりだと思います。私はそういう専門的にではなく、普通の常識人、普通の一般人として、歴史教科書はどれがいいかを見る場合に、大体、次の３点を頭に置きながら、それがどこまで反映されているかということで考えてみました。

その１点は、これは大藏委員と重なるところもありますが、歴史というのは事実の羅列だけではない、その事実に対して、当時の人はどのような思いで、どのような対応をしたのか、その心の面も記述されなければならない。つまり、いまの価値観で当時の善悪を判断するのではなく、当時の人たちの考え方というのも、歴史に反映されているかどうか。これは大事だと思います。

つまり、わかりやすく言ってみれば、私たちが祖先の歴史を見る場合、その祖先がどこで、どんな家に住み、どんな道具を使い、どんなものを食べていたのか、あるいは、どんな出来事、事件があったか。これは大切なことです。当然これは大切なことですが、これだけでは歴史の半面だと思います。そこに心がなければならないと思います。犬や猫の歴史ならこれで十分でしょう。

しかし私たちの祖先、しかも血のつながった祖先の歴史を見る場合には、私たちの祖先が、この島国でどのような国をつくろうと思ったのか、建国の理想はなんであったのか、また、いろいろな事件に対して、当時はどのような状況の下でそれが起きて、どのような考えで対応したのか、どのようなことに悲しみを感じ、どのようなことに喜びを感じていたのか。一般的な所では、女性は子どもを育てるのにどのような思いで、また、子どもたちに、あるいは子孫にどのような国、どのような社会をつくってほしいという祈り、願いのようなもの、これらが反映されるような描き方でないと、私たちは祖先の歴史を理解したことにならないと思います。事実の羅列だけでは駄目で、やはり、その心の面もあって、はじめて我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚が育つと、私はそのように考えています。

第２点は、これも大藏先生のお話にもありましたが、読んでいて面白いもの、やはり面白くなければ駄目で、ヒストリーはストーリー、まさにストーリー、物語性がなければならない。その意味では、内容はともかくとして、この扶桑社の歴史は読んでいて面白いという先生の意見もありました。やはり読んでいて面白い。どうしても年表の羅列だけだと、読んでいても退屈します。試験勉強のためだけではなく、普段でも、読んでいて面白いという歴史教科書が欲しいと思っています。

第３点目はバランス。いろいろな事件、出来事が昔あったけれどもどの事件を載せ、どの事件を載せないのか、これはバランスの問題になります。それぞれの考え方がありますので、一概にどれが良い、悪いということを、私の口から言うのはあれですが、たとえて見れば、歴史には明暗があります。これは個人、１人の人間でも、自分の過去を振り返れば、人に誇れる明るい面、あるいは、人に言えない恥ずかしい面と両方あると思います。国の歴史にもやはり明暗があると思います。この辺のバランスを取らないと。私の不勉強のせいか、あまり知らない一揆が羅列されて、当時の民衆は常に圧迫されていた。当時の為政者は民衆を搾取していた。そういう流れの中だけで見ていると、そんなに江戸時代というのは暗い時代だったのか。当時の世界と比べて、どのような生活、どのような状態だったのかということがわからなくなると思います。どこの国でもやはり暗い面もありました。戦争もありましたし、そういう圧政もあったでしょうし、いろいろな事故もあったでしょう。その描き方を無視するのではないけれども、あまりそれを強調しそればかり並ぶと、なんとなく暗くなってしまう。なんか僕たち、私たちは犯罪者の子孫なのか

なと、そういう気持を持たせてしまったのでは元も子もない。やはりこの辺はバランスの問題になりますが、どの辺のバランスが正しいかはそれぞれの考え方があります。

以上、私はその３点を大体頭に置きながら、一通り見ました。その結果、いろいろご批判があるのはわかっております。大変批判があるのはわかっておりますが、やはり、この８社の中では扶桑社の歴史教科書が最良のものと、いまの段階では考えております。それが１点です。これについては、もちろん欠点もあります。その欠点は大藏委員もちょっと言われましたが、表現が硬い、ちょっと難しい文章がある、本は小さく装丁がちょっと、いまひとつ魅力に欠ける、あるいは、バランス的に神話の記述の仕方にちょっとどうかと思われる点がある。いろいろと技術的な問題はあると思います。が、それらを含めて、やはり子どもたちに明るい気持を持たせるという意味では、扶桑社の歴史教科書が、私は現在では最良だと思います。

これについてはいろいろ、外国からの批判があることも耳にしております。しかしこれも、私たち日本の国の子どもを育てるのですから、心ある外国の方々は、その辺は認めると思います。１例を挙げます。ワシントンは、アメリカでは初代の大統領、アメリカでは建国の英雄として描かれています。が、イギリスではこれを反逆者としてとらえている教科書もあります。これはどちらが正しいかという問題ではありません。これについてアメリカとイギリスが喧嘩をしたという話は聞いたことがありません。私はこれが大人の態度だと思います。やはり、その辺は毅然とした態度を持って、自信を持って子どもを導くということは必要ではないかと思います。顔色を窺って卑屈になる友人よりも、やはり、言うべきことは言う友人のほうが頼りになるし、本当の友好が生まれるのではないか。あえて申し上げれば韓国、中国の心ある人々は、理解してくれるものと私は信じております。以上が私の考えでございます。

安本委員　まず、歴史の教科書というのは、歴史も地理も、公民もおそらくそうなんだと思うのですが、歴史に関してはやはりいろんなこともありましたし、私もいろいろ考えるいい機会を得られたと思っております。私、この教科書を全部、８冊をすべて並べて、たぶんいちばん時間をかけて読んだのが、これと公民の教科書だと思います。歴史に関しましては、何を重点的に見て選ぼうかと思ったときに、その時代、その時代に生きた重要人物の取り上げられ方、それから、表現のわかりやすさ、読みやすさ、写真とか表の扱い方、そういうことを考えました。

実は扶桑社の市販本なんですが、大変興味があったので、発売当日にたまたま手に入れて、家に持って帰ってうちの子どもに、中学３年生と中学１年生ですが、見せました。なんの前ぶれも前置きも与えずに見せたのです。そうしたら２人とも「これ何、難しくて読めないよ」。これが第一声だったわけです。私は大人として、難しいか、難しくないかという観点はちょっとわかりずらかったのですが、本人たちに何が難しいかと聞きましたらまず、字ばっかりだ。確かにそうな

んですね。ほかの７冊の教科書を見ても、大変わかりやすく図で解説してあったり、イラストがあったり、写真が載っていたりとか、実にわかりやすい。それが助けになっているわけです。私は、小学校、中学校は基礎、基本を学ぶべきだと思っておりますので、これはどの科目に関してもそうです。知らなければならないこと、知るべきことを小さいうちに、小学校、中学校のうちに学ぶべきだと思っております。ですから、大藏先生や宮坂先生のおっしゃるように、「年表に解説がついたような教科書は」というご意見に関しまして、私は、極論ですけれども、年表に解説がついていていいと思います。

例えば私の息子、６年生の授業参観のときに、廊下を歩いて来ましたら右と左の部屋に、豊臣秀吉と織田信長という札が下がっていたのです。どちらでもどうぞご参観くださいということで、フッと覗いたら、出ているとおり、豊臣秀吉の部屋は豊臣秀吉だけやっていて、織田信長の部屋は織田信長だけやっているのです。それはそれなりに、担任の先生方は、議論とか、調べてやりましょうとかそういう授業、要するに、それがまた総合的学習とかいろいろなことに結びつくような、社会だけではないという授業をなさったおつもりだったと思ったのですが、結局そういうふうに豊臣秀吉だけ。うちの息子は豊臣秀吉の部屋にいたのですが、「あとで織田信長の部屋に行ったの」と言ったら「知らない」と。ということは、なぜそんなに深く豊臣秀吉や織田信長を学ばなければならないか、私はちょっと、そのとき別に何も申し上げませんでしたが、ちょっと理解ができなかった。だから、やはり小学校、中学校の間は基礎、基本、これがいちばん大事だと思っております。

いろいろなことがあって、あの本自体、私もあっという間に読めまして、物語と言いますか、そういう意味では、確かに細かいいろんな間違いがあるのか、いいのか、いまいろいろ言われていますけれども、そういうことはそれとしても、読み物として、読んで、大人にはいいかもしれません。それなりの知識も持って、大人が読むものとしては、私は、もしかして、楽しい本の１冊というふうにはとらえられました。

ただ、あまり細かいことはいいのですが、１つ、どうしてもこれだけはちょっと困るなと思ったのは、神話の記述なんですね。確かに、ヨーロッパの教科書なんかは、ローマ時代のいろいろな英雄とか、実在したのもしないのも、また、ギリシャ神話、ああいうものも教科書には載っているように聞いております。確かにそれはその国の考え方なのでしょうが、私たちが受けてきた教育の中での、神話と現実が混同するというあの書き方に関しては、子どもたちには与えたくないというふうには思いました。

私たちはいま現在を生きているわけで、百年前に生きていたわけではないのですが、歴史というのは事実を評価することだと思いますので、その時々に生きた方の思いとか、そこまでやるの

はもっと先の段階に行っての研究だと思っております。ですから、極論とは思いますが、基礎、基本を大事にしていただきたいと思う上では、年表に解説がついたと言われるほかの７社の教科書、このお話についても申し上げますが、扶桑社以外の教科書を選びたいと私は思っております。

小学校では歴史というのは、ある程度あるのですが、その中でやはり、扶桑社の教科書につながるような教え方をしている教科書はないのですね。そうなりますと、もしこの本で小学校から中学校に上がって学んだ場合に、このギャップはどういうふうに埋めるのか。先生はどういうふうにここをご指導なさるのか。これも私は問題になってくると思います。

先ほども別の教科で申し上げたのですが、教科書だけで学ぶことではない。歴史も絶対にそうだと思っております。子どもたちが持っている能力とか、興味をひくこと、持っている力を引き出すということにおいては、それは先生のお力だと私は思いますので、これはやはり先生が教えやすくて、子どもたちにもわかりやすい教科書を、私たちは責任を持って選ぶべきだと思っております。

ほかの教科書についてちょっとお話させていただきます。ほかの７冊のうちで東京書籍、教育出版、帝国書院、その３冊は印象に残りました。東京書籍に関しましては、インターネットも出ておりましたし、イラストなども豊富で、大変にきれいな、見やすい良い教科書だと思いました。

教育出版については、発展的な学習という意味では、役立つのではないか。ただ、少し指示的なのですね。わかりやすいのですが、こうしよう、ああしようというのを、考えるのではなくて、指示してしまうという、そういう部分がちょっと目についたのが残念でした。

帝国書院、これは主体的に学ぶという方法がはっきりとわかる教科書だなと思いました。インターネットのページ、いまはそういうのが世の中、よくやられているので、それがとても、一覧表として見やすく出ていたので、これは初歩的で、学ぶのにはいいのではないかと思いました。一応、印象に残っているのはその３冊です。

教育長　まず日本書籍ですが、編集に最初から何か見出しなんかを見ていてもそうなのですが、挿入写真もそうですが、かなりこう意図の見える編集だなと。それを平和主義というのか、何というのかちょっとうまく言えませんが、かなり全体的に意図が見える編集だなということで、ある種の視点で歴史というものは捉えるべきではない。

いま安本さんからもお話がありましたけれども、やはり時間に耐えてきたまさに事実を、子どもたちに客観的な事実として教えるべきだというふうに思います。特に、中学生ですから基礎、基本というのはとても私は大事だと思っております。中学校を超えて高等学校、大学で様々な歴史観なり何かを学ぶという機会はこれからたくさんございます。私もちなみに大学になってから初めて岩波新書のＥ・Ｈ・カーの『歴史とは何か』を読んで、なるほど、こういう見方があるの

かということで感動したこともございます。まだ中学校レベルでそこまで求める必要がないのではないのかなという、客観的なやはり事実をきっちり押さえてもらいたいなというふうに思っております。

そういう意味では、日本書籍の教科書はもちろん客観的な事実に沿って編集はされておりますけれども、ある種の意図を私は感じて、もう１つ工夫が欲しかったなという気がいたしております。

それと対峙するのは扶桑社かなという気もします。扶桑社も冒頭から歴史の見方を指示しておりまして、そういう意味では大変指示がましい教科書だなという印象も受けます。先程来、お話が出ておりますが、読み物としては大変面白くて、まさに一気呵成に読めるものでございます。それは大人が様々な経験、体験、様々な読書などを通じて、時代というものをどう捉えるか。歴史とは何であったのかと、過去のものは何であったのかということを様々な角度から学習した上で、この扶桑社の教科書をもし読むならば、非常に面白い教科書ではないかなと思います。

まだ白いキャンパスにこれから絵を描こうとしている中学生に、最初から色はこれですよ。空の色は青ですよということは、どうなのかな。子どもは、空の色が黄色であってもいいし、赤でもあってもいいと思います。子どもっていうのはそういう感性を磨く大事な時期でございますから、キャンパスに予め描く絵の具の用意をして、子どもたちに、この絵の具を使いなさいというのはどうなのかなという部分で、扶桑社の教科書については、基礎、基本を学習する中学校の教科書としてはいかがなものかという印象を受けております。

そして歴史上の事実というのは、年表みたいという言い方もいえますが、とんでもございません。歴史上の事実というのは、まさにドラマでございます。物語でございます。それを上手に我々が作品として読んでいるのが、司馬遼太郎の作品かもしれませんし、童門冬二の作品かもしれません。我々はそういう歴史物語をたくさん読んでおりますが、まさに歴史上の事実が物語なのですね。事実は小説より奇なりなんていうことを、古くさいことを言ってすみません。子どもに「さぶー」って言われそうですが、私はまさにドラマだと思っておりますので。ただし事実だけを冷たく突き放して子どもたちに説明、解説をするような、もし教師がいるとしたら、子どもは何の感動もなく、単なる年表で、1787 年に何があったとか、どこの戦争があったとかそんなことばかり覚えてですね、高等学校の入試に役立つということになってしまいます。私は、それは歴史の学習ではないと思います。それを補うのが教師だと思っております。教科書で学ぶという意味は、そういうところだと思いますので、教師は私は語り部だと思っています。授業の中でそういう展開をしていただいているのが、先生です。

去年も中学生の「子どもサミット」というものを確か富士見丘中学校で開いたときに、子ども

の発言で、先生は教科書をなぞらえるような授業をしてほしくない。面白い話をたくさんしてほしい。教科書に隠れたドラマを喋ってほしいという、女子生徒からそんなお話がありました。私は、まさにそのとおりでございます。そんな学校はないと思いつつも、先生はドラマを教科書の素材から語ってほしいなということで、扶桑社はまさに教科書そのものがある教師になってしまっているなと。そうすると、ほかの教師の方の参加する余地がやや少なくなりはしないかなという気がしています。

例えば沖縄の戦争があったわけですが、あの戦争について扶桑社は、「沖縄の婦人も学生も勇敢に戦った」と書いてあります。私は、それはやはり一面であろうと思います。勇敢に戦ったという現象は見えますけれども、どんなに辛い思いで戦場に向かったかという部分にやはり欠落があるということは、それは必ずしも事実を語ったことにはならないのではないかなという気がします。そういう意味では、できるだけ客観的な事実を教科書は語っていただいて、そこにあったドラマ、まさに沖縄で何があったかということは、教師に、私は語ってもらいたいなと思います。逆に言えば、公平な記述を事実に沿って書いてもらいたいという印象がしました。やや日本書籍と扶桑社がある意味で対峙するようなニュアンスがあるような気がしながら、もっと冷静に中学生という子どもたちのことを念頭に置きながら、そしてもちろん文部科学省の指導要領に沿った記述をしてもらいたいという思いでございます。

扶桑社は、場合によっては高等学校などで副読本で使っても面白いと思います。つまり、ある程度練れた大人なり、成長した子どもでないと、ちょっと理解するのに困難が伴うのではないかなと、私はそういう印象を持っております。扶桑社と日本書籍を同時に語ってしまいました。

東京書籍につきましては、私は大変良い印象を受けております。大変客観的な事実を、しかも大変学びやすい工夫が随所にございます。そういう意味では、これからの調べ学習にも対応できますし、特にインターネットへの対応が資料として工夫されておりますので、私は東京書籍の全体のトーンが優れているなという印象を受けております。

ただ、東京書籍とほぼレベル的に帝国書院の教科書につきましても、全体に編集に無理がないという印象を受けております。帝国書院は人物カードからスタートしておりますので、大変親しみやすい導入でございます。文章もキャラクターにしましてもインターネットにしましても、これも大変バランスがとれております。私、正直言って東京書籍、帝国書院、どちらも優れているなという印象を受けております。

大阪書籍でございますが、これは教科書会社の性格だと思いますけれども、西日本の写真、あるいは天皇家の墳墓のこととか、特に西日本に偏ったような資料の抽出があるのかなという気がしております。なかなか絵や写真にも迫力はあると思っておりますけれども、ちょっと西日本に

偏っているかなという印象を受けております。

教育出版につきましては、これは審議会答申のことも若干頭にあるのですけれども、ちょっと図や写真について見にくいといいますか、ちょっと暗いトーンなので、見にくいかなという印象もございます。それから先生の指導力がよほどないと、教育出版の教科書をこなすのは難しいのかなという気がいたしております。

清水書院は、これはなかなかよく出来た教科書だと思います。紙質もいいですし、図や写真も大変明るいですし、調べ学習への対応もきちんと出来ております。説明文もやたら冗長にならずに、読みやすい工夫がされております。優れた教科書だと思いますが、若干文章の資料ですけれども、ちょっと字が小さいかな、ちょっと読みにくいかなという印象が、これは選定審議会のほうの先生方からもそんなようなご意見があるようでございます。

日本文教出版でございますが、ちょっと資料とか写真、数のわりには色使いとか文字の大きさに工夫が欠けているような気がいたします。調べ学習につきましても、具体的に方法が明らかになっておりません。子どもたちに関心を持たせるという工夫がやや欠けているのではないかなと、私はそんな印象を持っております。以上でございます。

大蔵委員　いまの与川委員の挙げ足を取るわけではありませんが、例えば沖縄の問題などについて書かれていない部分がある。それは、しかしどの教科書もそうなんです。書かれてない部分はたくさんあるのです。その部分こそ、与川さんのおっしゃる、語り部がつないでいく部分ですから、私は書かれてない部分をあまり議論するのはやはり難しいのではないかなと。だから書かれた部分について討議をしたほうがいいと思います。

もう１つは、この流れの年表でもいいとおっしゃるけれども、こういうふうな記述の仕方をすると因果関係がわかりますから、何が起こって次にこういうことが起こった。こういうことが起こったのは何があったからだという流れが非常にわかるのですけれども、年表式にいくと、その流れが断たれる。だから基本的に子どもに教えるべき必要最小限のものは何か、学ぶべきもの、学ばせるべきものは何かということがいちばん大事なので、私はそこを強調しているわけです。その一方で、やはり子どもが理解をして、次のものに興味を持って進んでいくということからすると、流れがあるほうが次の興味へ持っていくことができる。

それからもう１つは、扶桑社の教科書にはたくさんの人物が並べてあるのですが、それは必ずしもその１人ひとりのことについて詳しく書いてあるわけではありません。そんなこと書く余地はありませんから。しかしそこに出てくる人について、一言でも二言でも言われることによって記憶に名前が残り、それから広げてさらに子どもが、これはどういう人だろうということで興味を持ってさらに勉強していくということがありますから、そういう意味では、やはりいろいろな

ものを出すことは非常に重要だと思っています。ですから重ねて言いますが、扶桑社の教科書というのは全くこの７社と異質ですので、ダイレクトに比較するのは非常に難しいですね。しかし、７社のうちの１社の候補とそれからこの扶桑社の教科書は当然対比して議論をする余地があると、私は思っています。

教育長　そうですね。確かに、書かれていないこと云々と言いますと、すべての教科書についてそういう細かいことをチェックしていきますと、そういう部分はあります。ただ沖縄に関しては、私は石垣島のカビラ湾の近くに友人がいるもので、何回も沖縄に遊びに行ったことがあるのです。そこで聞いた話と、教科書の勇敢に戦った話ではあまりにも乖離があるものですから、ちょっと私はそういう意味では異和感を、特にその部分、ほかにも何か所かありますけれども、ちょっと異和感を感じたので申し上げたのです。確かに隠れた部分といいますか、語っていない部分というのはおっしゃるとおりだと思います。すべての教科書にわたって、そういうことで。

大藏委員　石垣島は戦争をしてないのですよ。

教育長　いや、そうじゃないのです。戦争はしておりませんけれども、沖縄にはたまたまそういう友人がいる関係で何回も足を運んだことがあるものですから、沖縄でのいろいろな話を、事実地元の方に聞いたことがございますので、そのときの印象とちょっと違うかなという印象を受けます。

委員長　東京書籍、それから安本委員は教育出版を挙げられていますね。

安本委員　選定審議会のご報告からもいいと思ったのですけれども。

委員長　それから帝国書院ですか。

安本委員　はい。

委員長　それから扶桑社。その辺に焦点がしぼられてきているように受けとめられます。その辺に焦点を当てて、ご議論をお願いします。

大藏委員　私は上の７社からすると、東京書籍がいちばんいいのではないかと思っています。扶桑社はちょっとこの際、同じレベルでは比較できないのですね。その問題の設定がどうかとか、こういうことでなかなかその年表とかやりにくいですね。だから、これはちょっと違うのですね。しかし、これが大きな波紋を投げかけて、ほかの７社にその提出をすると言われたときから影響を与えていると思いますね。

宮坂職務代理者　大藏先生に反論するわけじゃありませんけれども、東京書籍は確かに広島の記述が多いのです。私も先ほどのそういう内容のあれを外して、いわゆる、技術的に教科書として見た場合は、なかなかよくまとまっていると思います。ただ広島の記述が多く、あそこに「軍都」という言葉があるのです。確かに事実そうなのです。軍都というのは、当時はマイナスイメージ

ではないのです。東京のことは「帝都」という言葉を使っていましたから。ただ同じ当時の正しい言葉がいま現在使われると、軍都というのは何かマイナスイメージを持つのではないのか。だから原爆を落とされても仕方なかったのだというふうに、短絡的に結びつけられるのはちょっと怖いなという感じがするのです。

軍都という言葉自体どこの国にもありますし、もちろん軍のある所は当然あっていいのですけれども、軍という言葉自体が当時といまでは大分違うということもやはり認識しなければ。国語の教科書でしたら、昔の、先ほどもちょっと出ましたけれども旧仮名遣でも出て、それはそれに対して説明できますけれども、これは目的はあくまでも歴史の教科書であり、何ていうのですか、言葉の意味をいちいちそこで説明するという余裕もありませんので、ただそのまま使った言葉を使うと。そのときに誤解を招かないような言葉をやはり使ってほしいなと。意図そのものは別に否定はしませんけれども、そういった点にもやはり注意がほしいなという感じがちょっといたします。それだけなのですけれども。

安本委員　東京書籍の教科書は、教科書らしい教科書っていう感じがとてもして、いつもどおりの教科書みたいな感じは受けました。ただ帝国書院に関しましては、やはりとても文章が簡潔でわかりやすいということは確かにあったと思います。だらだら書いているのではなく、パッパッパッと。わりあいそういう方に導かれていくというのはわかりやすかったし、興味を持たせる。先ほどから何度も申し上げているように、授業だけではなくて先へ進んでいくもの、広げていくもの、想像力を広げるもののその端緒が教科書だと私は思っております。そういう意味では、そういうふうにパッパッと書いてある帝国書院の教科書に関しては、そういうほうにはなかなか役立つのではないかという印象は持ちました。

ただ東京書籍も実に写真もきれいですし、見やすいし、読みやすい。確か言葉が柔かくなかったですか、東京書籍は、そんなような感じが。

教育長　東京書籍は、ですます調でしたかね。

安本委員　確か、ですます調でしたね。ですから親しみやすいというか、そういう感じはやはりしましたけれども。

大蔵委員　97 年に出していて、今度変わるわけです。学習指導要領が当然変わりましたので、教科書も変わっています。その中でいちばん大きく変わっているのは、たぶん東京書籍じゃないかと思います。前回の東京書籍の教科書から、今度の教科書へ。ということは、取り方もいろいろあるでしょうが、学習指導要領をよく読んで書くと、かなり変わらざるを得なかったということで、変わったのではないでしょうか。ほかのところは、変わっています。ほかのも当然新しいのを取り入れていますから、それから「国を愛する心」とかいろいろなことがありますから、そういう

ので変わっていますけれども、しかし変わり方では日本書籍なんかは比較的少ないと思いますね。

教育長　確かにそういう印象、僕も同じ印象を持っています。

安本委員　帝国書院のは子どもにとってはとっつきやすいイメージというか、雰囲気はありますね。

大蔵委員　悪くはありません。それは私は認めます。どれか１つを選ばなきゃならないと言われると、私は東京書籍と帝国書院を比較するなら、東京書籍のほうがいいかなと思っているだけで。帝国書院を悪いとは思っているわけではありません。

安本委員　それは私も同じです。そうすると、やはり帝国書院のほうがいいかなという感じです。

教育長　ちなみに選定審議会の報告書を見ても、東京書籍と帝国書院についてはそれほどデメリットといいますか。

安本委員　デメリットないですね。先生のお考えもそうですね。

教育長　ええ。先生のお考えもほぼ同列の扱いのように、私も印象受けましたね。

宮坂職務代理者　なかなか難しいので。この東京書籍と帝国書院の２つだけに絞って、どちらがいいのかと聞かれるとちょっと悩むのですけれど、まあ帝国書院。全般的なバランスからいけば、ただちょっと一揆、あまり聞いたことない一揆など、ちょっとその辺のバランスもどうかなという感じもしないでもないのですけれども、どちらかといえばやはり帝国書院のほうがバランスがとれているかなという感じがしないでもないのですが。

安本委員　内容について、なぜこれが載っているのかとか、よく知らないとか。先ほどから一揆、一揆とおっしゃるのでその話になってしまいますけれども、それはやはり作者というか、書いた方々の意図だと思うし、絶対何でもいいから載せようとお思いになったわけではないと思うのです。何かきっと理由もお持ちだったでしょうし、これは知っておいてもらいたいと。お一人で書かれたわけではないですから、何人もの先生がいいのではないかとおっしゃって載せたわけですから。私はそういう事実について、この一揆がどうとかというのはあまり問題にしたくないと思うのですね。あとは先生がどういうふうにお教えになるか。というのもあったよとか、実はここにはこれしか出てないけれども、山城の一揆があった、何があったというふうにお教えになるのは、やはり先生だから。それはやはり教科書の中だけを教えるのではなくて、もっと広げて教えていただければもうこれに越したことはない。やはり教科書はそれの指針となるべきもので、先ほど申し上げたように極論ですけれども、年表に解説が付いたのでいいと言うのはそこにも理由があります。

教育長　帝国書院に、豊臣秀吉が韓国に侵攻した記述が非常に豊富、丁寧に書いてあるのはなぜかなというのはよくわからないのだけれども、事実は事実ですね。

大蔵委員　これは詳しいですね。だから、それは先ほどの邪馬台国が非常に詳しいとか。どうして

そういうことになるのかと。そこだけをある教科書が一生懸命にやるのです。だからその編集なり、執筆者の中にそれに熱意を持っている人がいるのでしょうね、きっと。だから、もう少しバランスをとったらどうかという気がしますね。

教育長　確かにありますね。

大藏委員　それから学校の先生から上がってきたのは、先生方がそれぞれ担当のところでお書きになって、それが審議会に上がってきて要約をされて、討議を当然なさったと思いますけれども、それで審議会報告として私どもはまとめていただきました。

　そのほかに、学校からの原票みたいなものもきておりまして、膨大なものを私も相当見ました。この中で、そのことについてちょっと申し上げておきたいと思います。それぞれについて、先ほどのように東京書籍や帝国書院がわりあい先生方は教えやすいとか、まとまっているという意見がありました。扶桑社については、支持する学校が非常に少なくて、それはまあそうだろうと思う。しかし、その中に非常に不誠意であって、１つひとつの項目について何も書かずに、おしまいの所に、「こんな教科書は使えない」と殴り書きをしてあるのがいくつかありました。私は、これはそれぞれの学校で先生方が審査なさるときには、やはりもう少しちゃんと読んで、扶桑社のどこがいけないかということをきちんと書くべきであると思います。

　扶桑社についてはある種の偏見があって、なかなかきちんと討議されなかった部分があるのではないかなというのが、私は残念だと思っています。

安本委員　偏見というのは、どういうことですか。

大藏委員　内容だとか、使い方や構成分量とか、項目がずっとありますね。何もそれについて書かないで、いちばん最後に、こんな教科書使えないと書いてあるのは、これはやはり何らかの考えがなければそんなことにはならないでしょう。

安本委員　私もできる限り見ましたけれども、例えば国語などに関しては、それとまたちょっと反対で、これでよい。全部、これでよいと、これでよいと言われても。

大藏委員　それも問題ですけれども、でも項目について、しかし少なくてもこれでよいと、内容についてこれでよいということが書いてあるのです。何も書かないで、いちばん最後の総合か何かありますね。

安本委員　総合的所見ということで、総合所見があります。

大藏委員　そこに１行だけ、「こんな教科書使えない」。私は、やはり教師としては審査に当たるということを担当したのならば、それは間違いであると思います。

安本委員　批判するにしても、何にしてもお書きになるべきですね。

大藏委員　やはりちゃんと書いてもらいたい。だからこのどの部分が悪いとか、悪いことばかりで

もいいです。この部分が悪いということをちゃんと指摘するべきです。私どもはそういうのを見て、１つの判断材料に、そればかりではありませんけれども、加えようとしているわけですから。

安本委員　かえってどちらかというと、教科書展示会の皆さんのアンケートのほうを私は結構興味を持って、皆さんこんなにお勉強していらっしゃるのかと思って。

大蔵委員　ちゃんと書いてありますね。

安本委員　ご自身、きちんと住所もお名前も書いていらっしゃる方もあって、私はすごいなというふうに思いました。皆さんとてもよくお勉強していらっしゃるし、これだけの教科書、たった１冊、やはりそのアンケートに関しても、ほとんど扶桑社のことなのです。でも、この教科書で、それだけ皆さんが読んでいらして、お勉強なさって、私はこの問題でこれだけになったということは、皆さんにとってもとても良かったのではないかなというのを思いました。もちろん、賛成のほうもあるのです。この教科書を選んでほしいってあります。

大蔵委員　ええ、賛成は結構ありました。

安本委員　でも、それもそれでちゃんと理由が書いてあって。ああ、なるほどなと。いろいろな思いがありますから、そういうことは考えると１行でバッとされてしまうと、やはり専門家なのですからもう少し書いていただきたいという気はいたしますけれども。

教育長　1,000 人弱の方ですか。私も見せていただきましたけれども。

大蔵委員　展示会のほうですね。

教育長　展示会のほうです。結構丁寧に書いてあります。批判であろうが、何であろうが含めて。教師の方が何も書いてないというのは、ちょっといささか私も疑問といいますかね。

大蔵委員　だから、これで良いと言うのも頼りないけれども、しかし少なくともそこについて何らかの評価をしている。しかし、それを書いてないということは全然読まなくて、こんな教科書嫌だと書いたという解釈もできるわけですね。

安本委員　それはないと思うけれども、読まないでということはないと思う。

大蔵委員　そういう書き方自体が問題ですから、そうとられても仕方ないです。

安本委員　でも、そうじゃないと私は信じていますが。

教育長　そういう意味では、展示会に来られた方はちゃんと書いています。かなりの文章を書いている方もいらっしゃいました。

安本委員　すごいです。いろいろあれを見てもお勉強になりました。このことはこういうことだったのかとか、いろいろなお考えもあるし、ああ、なるほどなと。ほかの教科書で読んでいてわからないことでも、どちらかというと区民の方のアンケート、先生からの学校から上がってきた原票というのは、とてもなるほどというふうに思いました。あの教科書を読んだだけではわからな

いことというのをたくさんお勉強させていただいたというのは、感想としてあります。

宮坂職務代理者　大藏先生のおっしゃるとおりですね。冷静にならないと、何か頭ごなしに、１つの偏見を持って全部拒絶するというのは、やはりどうかなという感じはいたします。もちろん賛成ですという場合は、あまり理由は要らない場合はあるのですけれども、反対ですなら反対の理由。言論の自由に責任というものが伴うわけですから、そういう意味では冷静になって議論しないと決まらないと思います。

委員長　大変ご熱心に、いろいろご意見をいただきまして、ありがとうございました。やはり基本的には、教科書とは何ぞやということにも関わってくるようなこともあると思います。私自身、大学ですけれども、教科書を 20 数年使っていて、自分の使いやすさということ、いちばん困るのは使いにくいというか。先生方が使いにくいというのがいちばん困るわけですね、教えられないわけですから。だから責任持てないということになってくるし、その辺のことも考慮しなければいけないと。

そのためには内容の問題もあるし、ボリュームの問題、特に過多であるというか、この扶桑社のものは多少多過ぎてしまって、そういった側面から見た場合にも、それをどうやって教えていくのかというのは難しいと思う。

あと教科書と参考書は違うということですね。だから読み物として優れていても、それが教科書になるのか。大学あたりでしたらなるかもしれないけれども、いわゆる教科書として基本を教える、それこそ義務教育や何かのときの教材として。読み物として優れているけれども、参考書を与えるわけにいかない。それはプラスアルファで読んでもらおうという形を取らざるを得ないというふうに思うわけです。

子どもさんにとってはバイブルになるだろうし、先生たちもそれをバイブルにしなければいけない。それから安本委員も言われていますが、子どもたちがそれを通じて発展的に学びたくなるという。今後、それを起点として、何も知らないわけですから、そこからどんどん芽が育っていくわけで、それを育てなければいけないという立場に教師があるわけです。また子どもたちも、伸びたくて仕方がない。そういう土壌を育てなければいけないということですね。

いろいろございましたけれども、帝国書院のものと東京書籍のものという話もありました。結構歴史というのは過去を捉えるということに重点がいくのですが、未来もこう語ってくれるというものも大事ではないか。杉並というのは国際交流が盛んですし、それから 21 世紀というのは国際交流の時代と言わなくても、どんどんもう良い面も悪い面もあるし、もっとローカリズムというのはしっかりしなければいけないのですが、どんどんグローバリズムが入ってきてしまうという世界になります。その辺の理解というのを、もう中学生ぐらいからやっておかなければいけな

いということで、その辺も重点的に扱っている。それから読みやすい、ビジュアルな面でいちばん良いという評価もいただいていますし、そういった側面で、帝国書院のものを採択にしたらどうかというふうに思います。よろしいですか。

（異議なし）

委員長　ちょっと時間が長引いていますので、事務局から約１時間ほどここで休憩をはさんだらというご指摘もありましたので、12 時 50 分に再開いたしますので、よろしくお願いいたします。一時中断します。

（休憩）

委員長　それでは再開したいと思います。午後の最初は、社会の公民的分野についてです。ご意見をよろしくお願いいたします。

大藏委員　たくさん意見があります。私は歴史の教科書よりも公民の教科書のほうがいろいろと問題が多いのではないかと思っています。歴史の教科書は修正箇所もそれぞれの教科書について検定の意見が付いたりして、非常に話題になりましたが、公民のほうではそれほど一般的には話題にはならなかったと思います。それから直し方についても私は問題があると思っています。

まず上から順番に日本書籍からいきます。日本書籍の説明の仕方も非常によくなくて、日本の社会保障について非常に低いようなことが書いてありますが、絶対額としては非常に高いです。内容的にも日本の社会保障はそんなに悪くありません。あとは負担率との問題で、たくさん負担をすれば高くなりますが、日本は税金も社会保障の負担もヨーロッパ諸国に比べるとかなり低いです。そうすると給付をそんなに増やすことはできません。そういうリンクの書き方がない。

それから、在日外国人の地方参政権についても、これを差別だととらえている。私は差別ではないと思います。これは日本国憲法に日本国籍であるということが書いてありますから、ただこれは裁判所で地方参政権などについては、公正的な裁量の余地があるということですので、国会が決めればできるということですけれども、しかしそれはあくまでもそういう便宜を図ることができることであって、必ずしも差別ではありません。そういう断定的な書き方はいろいろと問題があると思います。

それから自衛隊についてです。日本の軍事費は世界第３位と書いてあって、そして非常に大きい、23 万人の巨大組織であると書いてありますが、第３位は事実です。しかし日本のＧＮＰからすれば日本のＧＮＰは世界で２位ですから、それからすると軍事費は３位です。しかも日本の軍事費の大部分は人件費であって、非常にこの部分が高いですから、武力の部分というのはそれほど大きいわけではありません。

それから 23 万人の巨大組織というのも、先ほども言ったようにＧＮＰ比でいけば、日本はもっ

と大きくても不思議ではないし、人口からしても１億 3,000 万人近いものをもっていますから決して大きいわけではありません。何をもって 23 万人の巨大組織と言うか。これはとにかく自衛隊はよくないという前提に立って書いていると思います。客観的ではないと私は思います。

東京書籍はそういう問題はありませんが、非常に漫画が多くて、育休パパとか、紙芝居でバター戦争とか、何もこんなことを漫画にしなくてもいいと思うのです。育休パパというのは父親が育児休暇を取るということですが、それを変な漫画にしないでちゃんと書けばいいのに、私は父親が育児休暇を取るのに反対ではありませんが、こういう戯画化するのはどうかと思います。バター戦争なども私は非常に愚劣な漫画だと思っています。それ以外については普通のきちんとした書き方がしてありました。

大阪書籍は私は意外と買っていて、いままで大阪書籍というのは関西に非常に近寄っているということでしたが、いちばん最初が日本国憲法ですね。私は公民の教科書というのでいちばん大事なのは何かといったら、日本国の憲法に基づいてやるのであって、憲法から解き起こしていく、そして憲法の問題点を広げていくというのは、公民の教科書として最も適切ではないかと思っています。ここは福祉に非常に力が入っています。そういう点では私は悪くないという印象です。

教育出版はよくないです。例えば日本国憲法制定についてです。これもいろいろな制定の経過があります。総指令部の示唆により日本側が用意したと書いてあります。これは明らかに誰が見ても間違いであって、総指令部が英文を持って来てこれを翻訳させてやったことは確かです。その憲法が良かったか悪かったかということになればまた別の問題です。しかし、こういう事実関係の憲法に関わる間違いのようなことはよくないと思います。

戦後補償問題についても、これは詳しく述べれば大変ですが、ドイツの場合には戦後の問題があって、東西の対立があったりして、各国との間に平和条約を１つも結んでいません。戦後処理の条約というのはないのです。そしてナチスがやったユダヤ人に対する賠償みたいなものを個々にやっているわけです。

日本の場合はむしろ各国と条約を結ぶという形でやって、個々の補償をしないというドイツとは全く違った形になっています。しかし個人の補償というのは、これは条約の中に書いてありまして、以後のものについては一切自国の国民のことについては、それぞれの国が処理をするとなっていますから、いままでいろいろなトラブルがあっても韓国政府、または中国政府が、日本に対して、現在の韓国国民、中国国民に対して補償せよという要求をしたことがないのです。それを思いやりでやれということであって、これは条約によって片づいていることになっていますから、韓国政府がそれを日本国政府に国民のために要求することはできないという建前になっています。それでやらなくていいかは別ですが、日本は戦後補償問題は終わっていないというのは、

これは書き方として間違いです。

清水書院は、１枚めくった裏面に、１人当たりＧＮＰで各国を比較して書いてあるのですが、この中に台湾を中国に入れて社会主義国の中に入れています。これは台湾がどういう地位にあるかということについては、どちらも、台湾の中華民国政府も、中華人民共和国政府も、中国は１つと言っていますから、そういう意味では１つなのでしょう。けれども経済的には大陸の中国と台湾とは常に区別されていて、ＡＰＥＣでも独自に加盟しています。だから経済・社会問題では台湾は国ではなくて地域と呼ばれていますけれども、香港などと同じように別扱いになっています。経済的な面を中国の大陸として扱うというのは、これは私は重大な誤りの内に入ると思います。ここも社会負担率を書かずに、社会保障がどのくらいもらえるかということだけを書いているのは公正ではありません。

帝国書院は社会負担率と社会保障率を並記しています。こういう点では非常に帝国書院は公平です。防衛費の問題については人件費について触れていないです。戦前の軍人恩給などの扱いもありますので、防衛費だけを取り上げるのはちょっと違うと思います。

日本文教出版は、外国人も税金を納めているのだから参政権があるべきであるというのは、他のところが書いてある以上の間違いです。それは私もイギリスに４年、ソ連に３年住んでいましたが、税金はちゃんと納めました。しかしこれで参政権が発生するものではありません。参政権については相互主義を取っていたり、地域主義を取っていたり、いろいろなものがありますが、納税とは全く別のものです。それは日本にいる個人でなくて会社でもすべて税金は納めますが、それがそういう権利が発生することではありません。しかしその納税分に見合うだけの道路の使用だとか、公共のファシリティの使用であるとか、そういうことには使われているわけですから、参政権とは別の問題です。だから文教出版の書き方は少し問題があります。

扶桑社はこれもちょっと変わっていて、非常に個人の権利や義務について詳しく分析をしています。例えば日本の国家がどうかということについて、明治憲法でアジアの最初の立憲君主制国であるということが書いてありますが、それ以後についてはややぼかしてありますが、立憲君主制と読めるような書き方をいまの国の体制について言っていますが、やはり現在の体制は憲法に国民主権と書いてありますから、どちらかと言えば立憲君主制ではないと私は思っています。このような曖昧な言葉についてはもっとはっきりしたほうがよかったと感じます。しかし具体的な間違いとして何があるかということになると、私がいま挙げたような間違いはなくて、曖昧なところで、それはもっとはっきり書いたほうがいいとか、誤解をされるといけないというのはありますが、他の教科書にあるような絶対に間違いであるとか、いけないというものは比較的少ないと思います。

しかし難しさの点でいくと、先ほどの歴史教科書の場合、難しい漢字が出てくるとか、振り仮名がない、用語が難しいということがありました。これは歴史の読み物として読んでいけば、必ずしもそれほど難しいものではないと言いましたが、公民の教科書はそのような形の歴史のような読み物ではありませんので、そういう点ではやや難しいところがあるのは事実だと思います。これも歴史のときと同じように他の７社と扶桑社とちょっと違うのです。だから同列のレベルでどちらがいいか、これはこうなっている、こうなっている、という比較は非常に難しいという意味では同じです。

私は歴史教科書は、中学校の生徒が勉強して基礎知識としていくのに十分であると思いましたが、公民の教科書については間違いがないという点ではいいですが、記述の仕方やいろいろなことからすると、これはやや高等学校の教科書かなという印象を少しもっています。しかし決して悪い教科書で、頭から跳ねつけて、これは審査の対象にならないというようなものではないと思っています。ですから十分にこれについては討議をしていただきたいと思います。

委員長　他にどうぞ。

宮坂職務代理者　公民の教科書について私の考えを申し上げます。内容についてはただいま大藏先生がお話されましたので、内容的にはその通りだと私も思います。私は公民の教科書を見る場合に基本的な考え方をベースにして、それに則っているかどうかということで確認しました。公民の教科書ですから、公民というのは公の民です。端的に言えば将来社会の一員としての自覚を身に付ける、そういう観点が大事だと思います。

それでいろいろ見たときに、大藏先生から、大阪書籍は憲法から始めていて非常にその点はいいのではないかという話がありました。確かに憲法というのは基本ですからこれから始めるのは結構です。憲法の中でいちばん我々が基本と考えているのは、自由、権利、平等。これが基本で我々はそのように教育をされたし、教育もしているわけです。これは誠にその通りですが、ただこれだけが走ると、やはりバランスを欠いてしまう。

自由は大事なのですが、自由の裏には責任というものが伴います。権利には義務が伴います。この辺のバランスも必要です。平等という件に関しても、これにはやはり努力という側面を見落としてはならないと思います。

私は民主主義社会における平等というのはある面ではスタートラインの平等であって、ゴールの平等ではないと思うのです。スタートラインによって、地位、門別によって何ごとをなすにも差をつけられるのは問題がありますが、その間ゴールに至るまでの間にはそれぞれの努力が大事です。もちろん能力もあるし、ときには運もあるかもしれませんが、それらを含めて、結果のみを平等を重視するのでは、これは悪平等になるのです。平等でないのは学校のせいだ、先生のせ

いだ、社会のせいだと責任転嫁になってしまう恐れもありますので、やはりこの辺は教育の中できちんと努力も大事なことも、特にゆとり教育が叫ばれている折から、ゆとりというのは別に遊ぶためのゆとりではなく、そういういろいろな面を含めたというのもありますので、努力というのは何事に対しても大事だと思います。これらを含めてどれがいいかと申し上げると、私の考えでは８番目の扶桑社の公民教科書が最良のものだと判断しています。以上です。

安本委員　公民の教科書なのですが、いちばん印象に残ったのは現行使われている清水書院は、人権とか平和とか環境など、いまの問題をすごく重点的にとらえているので、子どもにとって考えさせるような配慮がなされていることがよかったと思っています。何度も先ほどから申し上げているように、先を考えさせる、想像力を広げるという教科書の観点から見ると、やはり清水書院だと思います。

もう１つは東京書籍で、こちらも障害者について、ハンセン病のこと、差別の現状を考えるところがあって、ここはすごくいいのではないかと思います。漫画的にという先ほど大藏先生のお話がありましたが、私はあまり気になりませんでした。その程度のことはどこの教科書も出てきているので、あまりこれは東京書籍に関しては気になりませんでしたやはり東京書籍は教科書をとてもきちんと作っている会社のようで、その点からいっても読みやすかったし、わかりやすいという感じでよかったと思います。

付け加えさせていただくならば、扶桑社の教科書なのですが、これは読み物として読むのはおもしろいかもしれませんが、やはり書き連ねてあるだけということで、ここからは何も想像力も、考えることも引き出せない。これだこれだという考え方だけが書いてある。そういう教科書であるという印象を持ちました。

私がいちばん扶桑社の教科書を見ていて気になったのは、どこのページにも随所に日の丸と自衛隊のことが出てきたことで、ちょっと私の年代から言うと抵抗があるかと思いました。もう１つは、北朝鮮の拉致事件のことが、この教科書は歴史も公民もそうなのですが、あたかも事実とそうでないかもしれない部分が一緒になってしまっているので、どこまでが事実かどうかわからないというところがあると思うのですが、この公民の教科書でも朝鮮の拉致疑惑ということに関して、事実であるかどちらもわかっていない段階で公の教科書に載せるのはいかがなものかという感想を持ちました。以上です。

教育長　公民の教科書は、中学生に日本人として、社会人として、市民として、住民としてと、そういう意識をきちんと持って権利義務をしっかり学ぶということですので、そういう意味では先ほどたまたま大藏先生がおっしゃいましたが、憲法から入っていくというのは、例えば大阪書籍に関して言えば、そういう入り方というのはすごく妥当だと思います。そういう日本人として、

社会人として、市民として、住民としてという視点で教科書を見させていただきました。

日本書籍についてはそういう視点がないわけではないのですが、それがやや権利主張というか、写真あるいは記載内容もそうなのですが、反権力的思考を不必要に煽るような写真とか、表現なども私はやや気になる写真ではないかと思います。何でこんなに使わなければいけないのかという違和感を持ちました。乙武氏の話なども載っていまして、市民としての優しさみたいなものを育てようという気持はよくわかりますが、全体のトーンが少し暗いイメージが私にはありまして、素直にはなれなかったという印象です。

東京書籍はですます調で、子どもたちには受け入れられやすい易しい記載になっていると思います。教科書というのは授業を進める上での材料ですので、教える先生にとっては見開きで一単元がまとまっているという、東京書籍の作り方は使いやすいのだろうという印象を受けました。また、アドレスが付いているのでインターネットでの活用も十分しやすいのではないかと思いました。

大阪書籍については、憲法が載っているので私も好印象を受けました。ただ見開きで一単元になっていないものですから、使う側、教えられる側にとってはどうなのか。そんなことは大したことではないといえばそれまでなのですが、使いやすさという意味では、大阪書籍についてはもう１つ工夫がほしいという気がいたしました。

教育出版についてはさほど強い印象が残っておりませんが、選定審議会の報告などではまとまった教科書だという評価はいただいておりますが、それ以上のより積極的な印象はございません。

清水書院は現在使っている教科書で、乙武氏の話なども含めて人権の尊厳ということにかなり意を配っている部分がありますが、これは審議会の報告の中にもありますが、新しい項目の分量が少ないのではないかというご指摘も含めて、全体的にバランスが悪いという印象を持っています。現在使っている教科書ではありますが、選定審議会の報告の中でも必ずしも高い評価ではないような印象を私は受けました。

帝国書院はよくまとまっていると思います。ただ先ほど漫画の話がありましたが、帝国書院も少し漫画に依拠しすぎているのではないかという感じがしないではありませんが、まとまっている教科書だとは思います。

日本文教出版は、なぜでしょうか、新聞記事を写真に撮ってそれを随所に使っているのです。それ自体は使い方によっては大変面白いアクセントになるのですが、あまりそれがあらゆるページにたくさん出てくるものですから、逆にもう少し工夫ができなかったのかという、編集の資質に問題があるような気がいたしております。そういう意味ではちょっと読みづらい教科書ではないかと思います。

扶桑社の教科書ですが、読み物としては、例えば一斉授業で使うとか、使い方によっては面白い教科書だと思っております。ただ、ちょっと表現の方法で難解で、中学生でここまで考えさせることができるのかという、難解な部分ということ、これは審議会報告の中でも指摘をされているところです。難解か難解ではないかというのは、先生の授業の工夫で補える問題ではないかと思いますが、授業という形で子どもたちに公民としての意識を順々と説いていくということになると、ちょっと節目節目がずっとつながっているという感じがしますので、教科書として先生が教えるということになるとちょっと困難があるかと思います。カラーページも、写真のページも少ないので、ちょっと親しみにも欠けるかと思います。あくまでも子どもに視点を置くと、使いにくい教科書のような気がいたします。以上でございます。

大藏委員　安本さんのおっしゃった北朝鮮の話は、これは言いっ放しということではありません。たくさんの疑惑というのがありますが、その内 10 件 14 人については日本政府が公認をしているのです。これはとにかく拉致があったと認められると言っていますから、この分については政府が認定をしたことについて、これは両方で言いあっていることであって事実関係はわからないというのは、私はちょっと違うと思います。

委員長　皆さん方のご意見をまとめると、日本書籍、教育出版、日本文教出版、この辺りは今回の対象としてどうかということで集約できますし、残された５社について、特に何か絞るという方向で話をできれば。

教育長　今回、選定審議会の報告書を一応参考にさせていただいておりますが、日本書籍、東京書籍、大阪書籍、教育出版、帝国書院について一定の評価をして、あとはいろいろ課題を挙げておられるという気はしておりますが、やはり日本書籍については選定審議会報告書の中でも全体的に暗い感じを受けるというようなコメントは入っています。そういうことも多少参考にしながら、私は東京書籍が子どもたちにとっても、あるいは教える側にとっても、内容的にもバランスのいい教科書ではないかという印象を持っております。そのほか、障害者やハンセン病のこと、あるいは様々な差別の現状についても、丁寧な説明があったかと思っております。

安本委員　東京書籍がいちばん読みやすかったし、わかりやすいという点ではいいと思いますが、工夫されているのですが。

委員長　いろいろご意見おありでしょうけれども、全体を見ても東京書籍は柔らかな文章でわかりやすいし、漫画が多いというご意見もあるのですが、善意に解釈すれば工夫してそうなったのかと理解できるのではないかと思います。特に基本を教えるということに留意した点、工夫した点というのが中から見い出せますし、特色とすれば、現代の民主政治とこれからの社会、それに展望を加えたものなのですが、その部分が他の７社のものより多いページを割いて、重点的に整理

されているという、その中からも個性が見い出せるわけです。

その他、量的には 189 ページで、大体コンパクトにうまく作られていますし、８番目の扶桑社のものですと総頁が 256 ページで、かなりオーバーな数値になっていまして、教えにくいということも書かれています。レベルの高さということも、先程来、ご指摘されていますが、その点の他に量的にも難点が、審議会とかヒアリングの結果からも出されております。

大阪書籍というお話もありますが、今回東京書籍に絞らせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

（異議なし）

委員長　では次に移らさせていただきます。地図についてです。

教育長　これは前にも少しお話が出ましたが、２社しかありませんが、選定審議会の報告も踏まえつつ私が客観的に見ても、帝国書院の図や統計表の見やすさ、あるいは情報量などからいっても、帝国書院が優れているというのが、私には一見してそのように感じます。

大蔵委員　私も帝国書院のほうがいいと思います。

宮坂職務代理者　私も、地理関係というと帝国書院というのが頭にありますので、内容的にも現用のものでもあるし、使いやすいという点でも、情報量も多いようですし、帝国書院がよろしいのではないかと思います。

安本委員　見ていて楽しいですよね、この地図帳は。地図というだけではなくて、すごく盛りだくさんにいろいろな情報も入っていたし、私も帝国書院が非常によかったと思います。

委員長　地図については帝国書院のものの一致を見たというふうになります。どうもありがとうございました。

次に数学についてです。

教育長　これについては審議会報告なども参考にしながら拝見いたしました。東京書籍について評価が高くて、基礎基本を重視しながら発展的に授業に活かせるという部分も多くて、生徒に対応しやすいというのが選定審議会の報告書で、他の教科書との比較の問題で、他の教科書が特に劣るわけではありませんが、私もそのような認識を持ちました。ただその中に、２次方程式から円に入ってまた２次関数に入るという、なぜ２次方程式から２次関数に入らないのだという疑問もあるようですが、これは先生方の力量でカバーできる部分かという気はしております。

その他、大阪書籍では何となく印刷手法が少しのっぺりしているというご意見もあります。

大日本図書については、全体的に少し詰め込みすぎで、全体的に余白が少ないという印象も受けます。言うならば１ページあたりの行数が大変多いと。好きな子はいいのですが、できるだけ数学嫌いにならないように、親しみを持てるという意味では余白が多いほうがいいのではないか

という意味では、大日本図書は気がかりです。

学校図書も比較的評価が高い教科書でいいのですが、逆に紙質がよすぎて、書き込みがいいかは別にして、書き込みなどがしにくいというお話もあります。あと問題数がやや少ないかと思います。小学校のときにも申し上げましたが、なるべく子どもたちにたくさんの問題を解かせるということは、数学に親しめる、理解を深めるという意味で必要なことだろうと思います。もちろん補助教材も必要だと思いますけれども、また先生にもそういうご努力はいただいておりますが、ある程度教科書の中でもそういう取り組みはしていただきたいと思います。

教育出版については、カットとか図の面でわかりにくい部分があると伺っています。円と扇形の扱いがまとまっていないということで、これも教えにくい材料の１つになっています。

啓林館については自主学習にやや不向きかと。授業中教わるのにはいいのですが、自主学習するにはやや不向きかという部分をご指摘を受けております。

そういうご指摘も含めてですが、東京書籍が比較的その中では全体に無駄がなく、レイアウトもわかりやすいということが言えるのではないかと思います。

安本委員　数学は小学校のときから苦手だと思ってしまうとかなり厳しいものが出てくる科目だと思うのですが、大日本図書などはわりあい引き出すような内容があっていいかと思ったのですが、ちょっと１ページあたりの行数が多くてすごく見づらい感じがして、そういう苦手意識を持った子どもたちには最初の取っ付きからちょっとまずいかと思ってしまうかなという感じがしました。選定審議会の先生のお話でも、やはりレイアウトが十分整理されていないのでということで、もう少し整理してもらいたいというようなお話もいただいておりました。

東京書籍の場合にはとてもレイアウトが整理されていて、やはり研究されたいい教科書だと先生方からも伺いましたし、私も見た感じとても整理されていて、この教科書は使いやすいのではないかと思いました。何よりも基礎、基本を重視しているというところが見られたので、この東京書籍はなかなかいいのではないかと思っております。

大蔵委員　中学校の数学になると小学校のように順番にということではありませんので、教え方の順序なども変わっているのです。そういうのをずっと見ていくと、私はどちらも知っていることですからどちらが先に出てきたほうがいいのかもわからないし、自分が習ったときにどちらを先に習ったかも覚えていません。それも決定的ではないと思いますが、系統的なことからすると、東京書籍はわりあいに入りやすいのではないでしょうか。

宮坂職務代理者　現行で慣れているというのもありますし、よろしいのではないかと思います。

教育長　小学校で特に算数に苦手意識を持っている子が、中学生になったときに数学を好きになれるような、入りやすいような仕掛けがないと、ますます置いてきぼりを食ってしまうのです。高

校、大学へ行っても分数ができない子になってしまうので、そういう意味では入りやすい、素直になれる教科書がいいと思います。

委員長　そういった意味で、東京書籍は基礎、基本をいちばん重視しているという審査会の報告もありますし、いわゆる数学離れというか、そのような問題を防ぐことにも有効ではないかと私も考えます。数学は東京書籍にしたいと思います。

理科の第１分野、第２分野のほうに移ります。理科の第１、第２分野は同一会社が望ましいということを審議会のほうから承っていますし、一括して議論していただいてよろしいですね。

教育長　１分野、第２分野は同一教科書がいいと思いますし、杉並区ではそのようにしてきましたし、杉並区はそのようにしてきた結果か、教える教師の資質かわかりませんが、大変理科教育に力が入っていると私は思っています。これはうちには科学教育センターという教育機関がありますので、それの寄与するところも大きいと思いますが、杉並の理科教育は教師も含めて大変熱が入っていると思います。よく理科離れと言われるのですが、杉並の子はかなり実験もしていますし、解剖なども含めてやっていますし、理科に対して大変関心が深いと思っています。これは教科書の力もあるのでしょうが、教える先生の力だと思います。

そういう実績も含めて、私はいま使っている大日本図書の教科書を再度読ませていただきましたが、大変新しい指導要領にも沿っておりますし、よく工夫もされておりますし、これは他の教科書も同時に言えるのですが、写真とか、図とか、大変よくできていると、全体的によくできているのですが、大日本図書のいままでの実績も含めて、しかも杉並に大変馴染んでいるということも含めて、私は第１分野、第２分野とも大日本図書を是非使ったらいいのではないかということで、他社のことはあまり申し上げなくて申し訳ないのですが、大日本図書を推させていただきます。

宮坂職務代理者　私もいちばん使いやすいということで、理科、数学もそうなのですが、先生方が教えやすいということで、内容的にも誤りがあるということはないと思いますし、考え方も歴史とかの分野と違って、考え方というものも決まっていますので、あとはレイアウトとか、子どもたちを引き込みやすい技術的な問題が大きなウエイトを占めると思います。

子どもというのは興味を持たせると意外といろいろと覚えていくのです。いくらお尻を叩いても嫌いになってしまうとなかなか覚えられないというのがありまして、雑談的になって申し訳ないのですが、３つ４つの小さな子どもが山手線の駅の名前を得意になって言う、あるいは車の名前が得意で全部の街を走っている車を言える。お父さんのほうはハンドルは握るけどそんなに詳しくないし、街を走っている乗用車もジャガーかライオンかの区別もつかない。それを口も回らない子どもがポンポンと言う。ひょっとすると家の子は天才ではないかと。ところがその子ども

がだんだん大きくなっていろいろなことを覚えなければならない、だんだんメッキがはげてくる。よくそういう話を聞きます。

これは子どもにすれば１つのことに集中できるというのは１つの長所でもありますし、それは興味があるから覚えるのであって、興味がなければいくら子どもに教えてもなかなか覚えない。問題は算数にしても理科にしても、いかに興味を持たせるかというのが、ある面では先生の腕の見せどころかもしれません。先生が腕を見せられるような教科の配列というのがいい教科書であると思うのです。これは考え方の違いで、１＋１が３だという先生はまずいませんから、理科とか算数の答えは最終的には同じなのです。その持っていき方に興味を持たせるような教科書の配列がいいと思います。

そういう意味では、第１分野、第２分野は同じ会社がいいという希望もあるし、やはり使い慣れているという面で、やはり大日本図書がいいのではないかと私は思います。

大蔵委員　私は内容までは理解できませんでしたが、大日本図書はとてもきれいでした。印象はすごくいいので子どもはよろこぶだろうということはわかります。

安本委員　私も理科というのはちょっとあれなので、選定審議会の報告書とか、校長先生の話を伺っていても、大日本図書に関しては使いやすいということと、丁寧な説明がされているということで、大変好ましい教科書であるということ。量的に１時間の授業にちょうどいい感じがするというお話をいただいているので、他の教科書に関しては内容的に導入の部分が難しいとか、基礎、基本がもの足りないとか、わりあいそういうお考えだったので、大日本図書がよろしいのではないかと思います。

委員長　大体わかりました。現行は大日本のわけですが、いろいろ審議会等の答申を見ても、他社との比較で大日本がいいということがあります。やはり質的な意味でかなり高度を求めているというのが、先生方からも要求されているように思います。それに応えるのが大日本であると。逆に量的に少ないものが２、３あって、それは盛る量も少ないのだと。他の教科ではあまり見られなかったようなその辺の歯切れのよさが出ているのが、この理科に対する審議会での評価結果と思います。

先ほど教育長が言われましたが、科学教育センターのいろいろな伝統というか、30 年間施設をうまく使い分けて、それが有効的に働いて質を高めているのかと。それに耐え得る教科書ということから、そういった意味で大日本の総意というようなことになります。どうもありがとうございました。

次に音楽一般です。

安本委員　現在、教育芸術社の教科書が、音楽一般と器楽のほうも使われているようですが、どち

らの教科書も大変レイアウトが見やすくて良かったと思います。それで、クラシック中心といいますか、いまの子どもたちにどちらがいいのかというのは、判断のあれではないかもしれませんが、音楽の授業で使うということになると、教育芸術社の補強業社のほうがクラシックが中心で載っていることと、器楽のほうは和楽器のほうも、かなり出ていましたし、写真もかなり分かりやすく、説明もなかなか迫力があり良かったと思います。

現在、使われていることもありますが、私は教育芸術社の教科書のどちらも良かったと感じました。

教育長　私のほうも、安本委員のおっしゃったことと、ほぼ同感です。新しい指導要領から和楽器の扱いが入りますので、そういう意味で、私はその辺のところも、特に重点を置いて見たつもりです。教育芸術社の扱いがいいのではないでしょうか。曲の選択も懐しい曲も含めて、最近の新鮮な曲、ポピュラーといいますか、そういった曲の選択も含めて、クラシックとのバランスも含め教育芸術社がいいのではないかと思います。

宮坂職務代理者　私も同感です。

大蔵委員　新しいものは、最近、はやりのいろんなポピュラーやポップソングといわれるようなものは、自分で子どもたちもいろいろな機会がありますし。それから、クラシックみたいなものは、学ぶということでは一般に音楽を聴くことだけはありますが、なかなかありませんので、そのようなチャンスを増やすという意味では、やはり教育芸術社がいいのではないかと思います。

宮坂職務代理者　同感です。

委員長　安本委員は音楽一般ということで、教育芸術社と言われました。それで、他の委員の方々は一般ということでお答えになって。

大蔵委員　いえ、両方です。

宮坂職務代理者　両方です。

教育長　両方です。

委員長　では、音楽一般、音楽器楽の両方とも教育芸術社ということにします。

次は、美術です。

教育長　これは３社が出ていると思います。開隆堂については、全体的に系統性に欠けるとか、アカデミックな作品が少ないとか、レイアウトに工夫が足りないということで、これは選定審議会のリポートを見ましても、中学校で教える教科書としては、いささかデメリットが多いという印象を受けています。

光村については、なかなか作品が良く、写真も大変鮮明でいい作品があり、鑑賞するのにはいいと。私は彫刻を見たり、絵画を見ることが大好きなのですが、それは大人の私が見るからで、

さて、中学生という発達段階の子どもたちにとってどうなのかということで視点を変えてみると、芸術作品で何が高度か、そうでないかというと難しいですが、子どもたちに理解をさせるのにどうなのかという部分で若干の心配、疑問が残りました。

そういう意味では、日本文教出版については、全体に制作過程の導入部、展開部、完成までの流れが丁寧に表現されています。それから子どもたちの作品もたくさん取り上げている、表現の多様性を工夫させる配慮があるという意味で、日本文教出版が、子どもたちに教えるという意味でいいのかと。美術本などを本屋でよく見ますが、いいなと思うのは、いい作品がたくさん載っているからいいので、そういう意味では光村図書はいいなと思うので、迷いますが、教科書という視点で子どもたちを美術に親しませるという意味では、やはり日本文教出版ではないかと。多少迷いつつ、とりあえずそのような意見です。先生方の意見も聞かせて下さい。

大藏委員　これは、幼稚園や小学校の低学年になりますと、図画の教科書といいますか、そういうものは絵を書くお手本です。それから、だんだんと鑑賞が入ってくる。ですから、小学校の上級生になれば美術の鑑賞というのが入ってくる。作るだけではないと。

そして、中学校の段階になってくると美術の発展の歴史みたいなものが入ってきます。光村は割合に美術史というのは書いてありますが、やや詳し過ぎるのでないかと。そこまでというか専門家を育てるのではないので、ギリシャ、ローマとごく簡単にやればいいので、少しそこに力点が入り過ぎているのではないかと。

ですから、３つのバランス、制作過程での手本としての教科書、鑑賞としての教科書、それから美術の発展をたどる教科書、それのバランスの全部からいいますと、やはり日本文教出版がいいのではないかと。

宮坂職務代理者　日本文教出版は、子どもの作品も大部取り入れているようですし、内容的にはよろしいのではないでしょうか。

安本委員　大人は本で鑑賞するのは無理かもしれませんが、子どもはなるべく本物を見たほうがいいと思います。確かに光村には作品がたくさん載っているし、きれいだし、良かったけれども、できれば本物を行って見たほうがいいなと。ですから、それだけで評価はできないと思いまして、文教出版に杉並区の区展に出したものが載っているということなので、意外とそれもいいのではないかと。選定審議会の先生のお話で、ちょっと込み入った教科書という印象があるといわれていたのが少し気になりました。ただ美術は描いたり作ったりが主ですから、見るだけではないので、いま使っている日本文教出版がいいのではないかと思います。

教育長　なるべく本物を見てもらいたいので。特に杉並は佐藤忠良先生、橋本堅太郎先生等々、トップクラスがたくさんお住まいですし、作品が区内にありますので、こういうものを導入にしな

がら、是非、見てもらいたいと思います。

安本委員　ですから、本当に本物を見ないと分からないということがあります。写真の平面だけではなく。できるだけ授業でも連れていってあげられればいいと思います。

委員長　わかりました。先ほど宮坂委員からも生徒の作品という話もありましたし、区内の作品も日本文教出版のほうに載っているということでしたけど、子どもの作品の数だとこれが文教出版が 183 で、光村が 54 で、断然、子どもの作品というのは文教出版のほうが多いです。こういった側面も、教育上配慮すれば、この文教出版ということで落ち着かせたいと思います。ありがとうございます。

次に保健体育に移ります。

教育長　これも、３社ですが、それぞれ工夫があり、いいのです。いま教科書全般にいえることですが、イラスト、写真、レイアウトを含めて良くできています。わざわざあらさかしをすることもないと思います。あらさがしよりも、より良いものをという視点で見まして、学習研究社の教科書が子どもたちの視点でわかりやすく、特に保健体育というのは、思春期の入口に立っている中学生たちにはとても大事ですので、何が大切かというような部分をよく整理されて書かれているのが学習研究社ということで、どこが特にということではなく、あえて良い点だけを見て学習研究社を選びました。

大蔵委員　昨日、小学校の保健体育を選んだ時にも学習研究社でしたが、このいろいろな説明の図柄だとかそういうものを、学研は百科事典を持っていますので、ああいうものとリンクしていると思います。非常に良くできたものが並んでいます。だから、他のものよりも見てとても見やすくて、しかも要点が全部入っているということです。ですから、学研がこの３つでは優れているのではないでしょうか。

宮坂職務代理者　逆に、写真が多すぎるのではないかという意見も一部ありますが、全体的なバランスという上では一番使いやすいといいますか、これが一番よろしいのではないでしょうか。

安本委員　昨日もそういう話が出ました。保健体育に関しては、学研はそれなりのものを持っていると、小学生のほうでも、そのような話がありましたし、見て何が足りないとか、何が多いとかそういうことをいうような本ではないと。実にまとまり良くできていると、なるほど百科事典からくるのがわかります。学研はいいと思いました。

委員長　保健体育は学研という話ですが、大方そういった意見で集約できますし、やはりビジュアルな側面でもかなり努力されているし、他社と比べて随分差が開いているというようなことを加えて、この学研ということにいたします。

次は技術と家庭ですが、これは従来同一種目であったものが今年から２教科に分かれました。

審議会では同一会社がいいという話もありまして、その点を考慮して議論していただきたいと思います。

教育長　東京書籍は現在使っている教科書で、開隆堂との比較の問題ですが、やはり使いやすい教科書であると思います。なんとなく、開隆堂は色使いが気になります。バランスがあまり良くないという印象を受けまして、東京書籍のほうが安定感があるという気がします。

あえて言えば、技術の部分でロボットが出てきます。ロボットというのは、いろいろな場面で、いま現在ロボットがなければ日本の社会は成り立たないぐらいになっていますが、身近なところで杉並区では、ロボットコンテストなるものも中学生が去年初めて実施しましたけれども、今年も２回目のロボットコンテストをやろうではないかという動きもあるようで、ロボットに対する親しみというのが、子どもたちの間にかなりあると思いますし、関心も高いと思います。それを東京書籍がうまく取り入れていますので、本区との関連付けの中でも使いやすいというプラスアルファーの魅力もありまして、東京書籍がよろしいかと思います。

家庭科についても、先ほどのお話もございましたが、資料も豊富ですし、いろいろな教材、適切な教材もしっかり取り上げておりますので、東京書籍で私は問題がないと思っています。

宮坂職務代理者　教育長に同感です。審議会の報告の中でも、２社を比較しますと東京書籍のほうが評価がいいようですし、東京書籍でもよろしいのではないかと思います。

委員長　相互比較ということで、比較しやすいということがあります。開隆堂に比較して東京書籍のほうがベターだということ、いろいろな点で言えますし、よろしいですか。

（異議なし）

委員長　では、技術、家庭とも東京書籍ということにいたします。

では最後に英語に入ります。

大蔵委員　私はマスコミ出身で大学で歴史を教えたり、一時期は英語を教えていたこともあります。それで、たくさん言うことが本来あるのですが、それには日本の英語教育のあり方、それから小学校までの持ち込みなどということがあります。

英語のいちばん大事なことは、４技能と言われますけれども、そのあたりをきちんとやるということで、英語で他のことを教えるというのは、もっと上の段階だと思います。だから、大学になれば経済学を英語で読んだりしているのは、たくさんあるわけですけれども、中学校の義務教育課程では、とにかく英語そのものの、ツールとしての、英語の力をきちんとつけることが大事だと思います。それからしますと、対比できるのは、三省堂と教育出版です。

三省堂はどちらかというと英語で他のことを、英語で世界を教えようという考え方です。もちろん英語ですから英語も出てくるし、単語も文法も何でも出てきます。けれども、いろんな世界

のものも出てくる。

しかし、教育出版はそれに対して英語を教えようというのが非常にはっきりしています。だから、私がどちらを取るかということになれば、その面白さの話題も必要ですけれども、英語をどう教えるかをきちんとやるべきだと思います。これについては、皆さんのいろいろな意見もあると思いますので議論の中で私の意見を言いたいと思います。私はどちらを取るかといえば、教育出版です。他の本は大体その中間にあります。

割合変わっているのは、いちばん下に出てくる秀文館という、これは新規参入なんです。いままでやっていなくて今年からこの英語教科書の中に入ってきたようですけれども、これはそのために慣れていないというのか、または他の教科書を見ながらそれと違ったものを作ってやろうということだったのか、これは割合、変わっています。変わっていますが先生方の評価はあまり高くありません。私はどちらかと言えばこれは意欲的だと、ワークブックなども付いてきていますが、なかなか上手に処理をしているのでいいのではないかと。

先生方の評価の中で低い理由の１つは量が多いということです。これは前の小学校の算数のところに出てきましたけれども、啓林館を取る時に量が多いということがありましたが、私は量が多いのは必ずしも悪くない、それはむしろ先生に裁量の余地がある。少ないと裁量の余地がないけれども。

だから、父兄から教科書を使い残して、先生が全部教え切れなかったのかという批判について、そうではありません、大事なところはちゃんと教えてあります。この教科書は量が多いのですということを言えば、先生としては少しつらいかもしれませんが、割合にいいのではないかと。そういう点では、補助教材なんかは使わずに、これを専心してやればいいので、秀文館は面白いと思いますが、教育出版のような手馴れたところに比べれれば、やっぱり比較すれば教育出版かと思います。

宮坂職務代理者　秀文館は魅力がいちばんあったのですが、新規参入というのは知らなかったのですが、取り上げている題材がストーリー性の面白い話もありまして、長所なのか、短所なのかそれぞれの考え方によりますが、少し分量が多すぎるという問題があります。ただ審議会の中ではあまり評価が良くないので、それであれば先生が使いやすい、子どもに興味を持たせる使いやすい教科書ということであれば、やはり教育出版かと、これは無難です。

三省堂は先ほど大藏委員が言いましたように、あくまでも英語を教えるのですから、国際状況を教えるわけではありませんから、やはり教育出版がよいのではないかと。または、少し冒険して秀文館をやってみるかと、それぐらいのところです。

安本委員　三省堂のニュークラウン、これがいちばん良かったと思います。三省堂は巻末のほうに

文法のまとめが分かりやすく載っています。これを見まして、私も、ああそうだったかと思い出したこともありました。かなり、最初の導入部分から明るい感じで、文章を読むということよりも、しゃべることのほうが先だと思っていますので。コミュニケーションを取るということ、読むということに関してはもう少し先でもというぐらいに思っています。

しゃべるということから考えて、いろいろ環境の問題とか国際的にいま大蔵先生がおっしゃった世界を教えようというのは好ましいと思っています。確かに教育出版は関心が持てるような内容であるということで、これもあちらこちらで使われているように聞いていますし、とても、内容的にもわかりやすかったので、いいとは思いましたが、少しきついというか、より漫画チックというように受け取りました。ですので、私は三省堂のほうでいきたいと思っています。

教育長　量が多い点では、東京書籍も量が多いです。開隆堂も題材が多いと、いま言われています。学校図書も量が多いと。そういう量が多いのは秀文館もそうですが、この辺は教師の力量でカバーもできると思いますが、これも７社もあるのでそれぞれ魅力があります。題材もいい材料を使ってまして、ジャズメンの話なども英語で表現したり、映画のシナリオから取ってきたり、大変に工夫がそれぞれされています。

その中であえて１点となりますと、選定審議会報告も比較的に欠点の少ない教科書のひとつとしてあげていますが、教育出版について、知的好奇心を満たす工夫がある、あるいは楽しい話題、楽しい題材が載っている、実際に即、生活の中で生かせると。そういう工夫があるという側面から言いますと、７社ありますが、あえて挙げろといわれれば、教育出版が妥当なのかという印象です。

大蔵委員　安本委員のおっしゃったことについてですが、コミュニケーションということでは、三省堂も教育出版も力を入れているのですが、その会話のことについて、会話そのものは教育出版のほうが私は会話付きのものが多いと思います。

先ほど言いましたように、英語をやるに当たり、私自身も戦争中は旧制の中学校に行きましたから、会話など全然なく読み書きばっかりやってきました。大学までほとんどそれでいって、初めて外国に行って、しゃべって、全然通じないという苦労を味わいました。けれども、読み書きのほうは、英字新聞でも自由に読んでいましたから、しばらくするとどんどんしゃべれるようになってきた。そういう点では、会話に力を入れなくて、読み書きに力を入れたほうがいいと本当は思っています。

けれども、いまの文部科学省の政策といいますか、学習と指導はどちらかというと義務教育過程、中学で初めて英語をやるのですが、会話に力が入っています。小学校からも会話をやると。私はそれに必ずしも賛成ではありませんが、その会話をやるのと、読み書きをやるのと、一緒に

というのはなかなか難しいのです。どちらかに専心せざるを得ない。そうすると、もちろん会話といっても、文字の書き方も、文法もやらねばなりません。しかし、どちらに重点を置くかというと、いまの教育方針は会話に入っている。

外国人と町で会っても話ができるとか、外国旅行をしても、買い物やホテルに泊っても困らないと、そんなことを実利的なことを非常に言われていることからすると、やはり教育出版の会話のほうが会話力をつけるのに役に立つと思います。ですから、私の本来の趣旨とは違いますが、全体の流れから、いまの社会の流れや教育方針全体からとらえますと教育出版のほうがその力がつけられると思い、私は教育出版のほうがいいと思います。

委員長　大体ご意見が出揃いましたけれど、私もこれからの杉並の行くべき姿、また先程来、申し上げていますけれども、国際化というようなことを含めてプラクティカルな、私も昔、留学していますし、なんで会話とか、実用的なものを重視してくれなかったと思ったほうでして、いくら読み書きできても、何でしゃべれないのだろうと、向こうもそう思いますし、よりプラクティカルなものを重視した教育出版に落ち着かせたいと思います。よろしいですか。

（異議なし）

委員長　では、中学校教科用の図書の採択に伴う審議を、これで終わりにします。ここで確認するため、一旦休憩に入りまして、また後ほど再開したいと思います。よろしくお願いします。

（休憩）

委員長　教育委員会を再開します。休憩前の審議を踏まえ、中学校教科用図書の採択本一覧を策定いたしましたので、確認のほどよろしくお願いいたします。工藤指導室長、よろしくお願いします。

指導室長　それでは委員長の命を受けまして、中学校採択教科書を述べます。教科、発行社と並列でいきたいと思います。

国語・東京書籍、書写・教育出版、社会地理的分野・東京書籍、社会歴史的分野・帝国書院、社会公民的分野・東京書籍、地図・帝国書院、数学・東京書籍、理科第１分野・大日本図書、理科第２分野・大日本図書、音楽一般・教育芸術社、音楽器楽・教育芸術社、美術・日本文教出版、保健体育・学習研究社、技術・東京書籍、家庭・東京書籍、英語・教育出版。

委員長、以上です。

委員長　以上のとおりで決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

（異議なし）

委員長　では、異議なしと認め、決定いたします。それでは、本日の委員会はこれで閉じます。なお、次回は８月８日午前 10 時から、第 14 回定例会の開催を予定しています。本日は長時間にわ

たりましてご苦労様でした。